

お茶の水女子大学学報

平成 13 年 7 月 1 日
お茶の水女子大学総務課

目 次

◇ 学 内 規 則	2	◎平成14年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）外国人留学生学生募集要項	42
◎お茶の水女子大学情報処理センター規程の一部を改正する規程	2	◎平成14年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）進学者選考要項 ..	47
◎お茶の水女子大学情報処理センター運営委員会規程の一部を改正する規程	3	◎学位授与	52
◎お茶の水女子大学情報処理センター利用規程の一部を改正する規程	4	◇ 諸 報	53
◎お茶の水女子大学ネットワークシステム管理運営規程の制定	5	◎名誉教授の称号授与	53
◎お茶の水女子大学大学院学則の一部を改正する学則	8	◎表 彰	58
◎お茶の水女子大学ホームページ運用指針の制定	9	◎施設課からのお知らせ	59
◎お茶の水女子大学ホームページ管理方針の制定	10	◎五大学等事務系初任職員研修	60
◎お茶の水女子大学文書管理規程の一部を改正する規程	12	◎平成13年度科学研究費補助金配分決定一覧 ..	62
◇ 人 事	13	◎セクシャル・ハラスメント防止に関する講演会	69
◇ 学 事	18	◎独立行政法人化への対応に関する講演会 ..	69
◎平成14年度お茶の水女子大学理学部第3年次編入学学生募集要項	18	◎訃 報	70
◎平成14年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）学生募集要項 ..	25	◇ 日 誌	71
◎平成14年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）外国人留学生学生募集要項	31		
◎平成14年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）学生募集要項 ..	37		

学 内 規 則

○平成13年お茶の水女子大学規則第49号

お茶の水女子大学情報処理センター規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成13年5月23日

お茶の水女子大学長 本 田 和 子

お茶の水女子大学情報処理センター規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学情報処理センター規程（昭和63年7月13日制定）の一部を次のとおり改正する。

第2条中「教育、学術情報処理及び事務処理を行うこと」を「教育の向上と事務処理の効率化に寄与し、本学の情報化を推進すること」に改める。

第3条第1項第1号中「管理、運営及び整備」を「管理運営及び整備に関すること。」に改める。

同項第3号を次のように改める。

三 学外ネットワークとの接続に関すること。

同項中第7号を第8号とし、同項第6号を次のように改め、同号を同項第7号とする。

七 事務処理の効率化の支援に関すること。

同項第5号中「支援」の次に「に関すること。」を加え、同号を同項第6号とする。

同項第4号中「支援」の次に「に関すること。」を加え、同号を同項第5号とする。

同項第2号中「指導」の次に「に関すること。」を加え、同号を同項第4号とし、第1号の次に次の一号を加える。

二 学内ネットワークの管理運営に関すること。

第7条第2項中「業務を整理する。」を「業務に従事する。」に改める。

同条第3項中「センター長」の次に「及びセンター主任」を加える。

第9条を次のように改め、同条を第11条とする。

第11条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

第8条を第10条とし、第7条の次に次の二条を加える。

（ネットワーク）

第8条 ネットワークの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

（利用）

第9条 センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成13年5月23日から施行する。

○平成13年お茶の水女子大学規則第50号

お茶の水女子大学情報処理センター運営委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成13年5月23日

お茶の水女子大学長 本 田 和 子

お茶の水女子大学情報処理センター運営委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学情報処理センター運営委員会規程（昭和63年7月13日制定）の一部を次のとおり改正する。

第2条第1項第2号を次のように改める。

二 センター長の推薦に関する事項

第3条第1項第7号を削る。

第9条を第10条とし、第8条を第9条とし、第7条を第8条とし、第6条の次に次の一条を加える。

（専門委員会）

第7条 委員会は、必要に応じ、専門委員会を置くことができる。

附 則

この規程は、平成13年5月23日から施行する。

○平成13年お茶の水女子大学規則第51号

お茶の水女子大学情報処理センター利用規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成13年5月23日

お茶の水女子大学長 本田和子

お茶の水女子大学情報処理センター利用規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学情報処理センター利用規程（昭和63年9月28日制定）の一部を次のとおり改正する。

第2条中「教育、学術情報処理」を「教育」に、「、利用することができる。」を「利用するものとする。」に改める。

第3条の見出しを「（利用資格）」に改め、同条第1項中第3号を削り、第4号を第3号とする。

第4条中「課題ごとに」を削る。

第5条を次のように改める。

第5条 センター長は、前条の申請が適当であると認めるときは、利用者コードを付して、これを承認するものとする。

2 前項の利用者コードの有効期間は、センター長が別に定める。

第6条中「前条の通知を受けた者」を「センターの利用を認められた者」に改める。

第7条から第10条までを次のように改める。

（利用者コードの転用等の禁止）

第7条 利用者は、与えられた利用者コードを第2条の利用の目的以外に利用し、又は第三者に利用させてはならない。

（報告書の提出等）

第8条 センター長は、利用者の研究等の結果又は経過の報告を求めることができる。

（利用の取消）

第9条 センター長は、センターの定めるところに従わない者及び他の利用者に迷惑を及ぼす者に対して、その利用の承認を取り消し、又はその利用を停止することができる。

2 前項の行為については、同項に規定する措置のほか、学則第50条に規定する懲戒の対象とすることがある。

（管理範囲及びサービス）

第10条 センターの管理範囲及び利用できるサービスについては、センター長が別に定める。

第11条中「センター電子計算機利用」を「センターの情報処理システム機器の利用」に改め、「（以下「運営委員会」という。）」を削る。

第12条を削る。

第13条中「、運営委員会の議により」を削り、同条を第12条とする。

附 則

この規程は、平成13年5月23日から施行する。

○平成13年お茶の水女子大学規則第52号

お茶の水女子大学ネットワークシステム管理運営規程を次のように定める。

平成13年5月23日

お茶の水女子大学長 本 田 和 子

お茶の水女子大学ネットワークシステム管理運営規程

(趣旨)

第1条 この規程は、お茶の水女子大学情報処理センター規程第8条の規定に基づき、お茶の水女子大学(以下「本学」という。)におけるお茶の水女子大学情報ネットワークシステム(以下「ネットワーク」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理運営)

第2条 お茶の水女子大学情報処理センター(以下「センター」という。)は、お茶の水女子大学情報処理センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)の策定する方針に従い、ネットワークの管理及び運営を行う。

(管理運営責任者)

第3条 センターに、ネットワークの管理運営責任者(以下「責任者」という。)を置き、センター長をもつて充てる。

(管理運営の範囲)

第4条 この規程により管理運営するネットワークの範囲は、次の各号に規定する基幹ネットワーク、支線ネットワーク及び学外ネットワークへの接続部分とする。

- 一 基幹ネットワークとは、大塚地区、館山地区を接続するネットワーク及び各地区内における建物間を接続するネットワークをいう。
- 二 支線ネットワークとは、基幹ネットワークのノード装置からセンターが各室に設置した情報コンセントまでをいう。ただし、センターが各建物に設置したイエローケーブルも含むものとする。
- 三 学外ネットワークへの接続部分とは、学外ネットワーク組織と、第1号及び第2号の接続における本学の責任管理部分をいう。ただし、各部局で独自に開設した外部ネットワーク接続用機器類を除く。

(連絡担当者)

第5条 各部局に連絡担当者を置き、ノード装置及びこれらの装置によって構成されたサブネットの管理及び運用に必要な業務を行う。

2 連絡担当者は、原則として情報処理センター員をもつて充てる。

3 ネットワーク運営を円滑に行うため、必要に応じ、連絡担当者会議を開くことができる。

(接続資格)

第6条 設置機器をネットワークに接続することができる者(以下「設置者」という。)は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 本学の教職員
- 二 その他運営委員会が適当と認めた者

(利用者の資格)

第7条 ネットワークを利用できる者(以下「利用者」という。)は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 本学の教職員

二 本学の教官の指導の下で利用する本学の学生及び研究生

三 その他責任者が適当と認めた者

(利用の範囲)

第8条 ネットワークは、研究、教育、事務及びそれらの支援以外の目的に使用してはならない。

(設置者及び利用者の責任)

第9条 設置者は、ネットワークへの接続及び利用に際して、ネットワークの機能及び運用に支障を来たさないことを確認する責任を負うものとする。

2 ネットワークに接続している機器を学外ネットワークに接続する場合は、責任者の許可を得なければならない。

3 利用者は、ネットワークの円滑な運用を妨げてはならない。

4 ネットワークを利用して行つた諸活動については、すべて利用者自身が責任を取るものとする。

5 利用方法に問題があると疑われる場合には、運営委員会の議を経て、その利用を停止することができる。

(接続の申請)

第10条 設置者は、設置機器をネットワークに接続する際には、所定の接続申請書を接続先サブネットを管理する部局の連絡担当者に提出し、その承認を得なければならない。

2 責任者又は運営委員会が必要と判断した場合には、求めに応じ、各部局の連絡担当者は設置機器のサービス内容及び接続状況を報告しなければならない。

3 責任者又は運営委員会が接続を不相当と判断した場合には、承認の取り消し又はアドレスの変更等を行うことがある。

(ドメイン名の申請及び承認)

第11条 センターからサブドメイン名を取得する場合は、所定のサブドメイン申請書を責任者に提出し、その承認を得なければならない。

(接続事項の変更及び廃止)

第12条 設置者は、申請書記載事項に変更が生じた場合又は設置機器を廃止しようとする場合は、接続先サブネットを管理する部局の連絡担当者に届け出なければならない。

2 責任者又は運営委員会が必要と判断した場合には、求めに応じ、各部局の連絡担当者は接続状況を報告しなければならない。

(接続の停止)

第13条 設置者及び利用者がこの規程に違反し、又はネットワークの機能及び運用に重大な支障を来たした場合は、責任者は一定期間その接続を停止することができる。

2 責任者が、ネットワークの運用に支障を来たすおそれがあると判断した場合には、サブネット又は機器の接続の一時停止を含む緊急措置をとることができる。

(責任分界点)

第14条 支線ネットワークから先に関しては、利用者が責任を負うものとする。

(障害報告)

第15条 利用者は、障害等により学内ネットワークを利用できなくなつたときは、直ちに調査を行わなければならない。

2 利用者は、当該障害の原因が責任分界点よりもセンター側にあると判断されるときは、速やかに部局の連絡担当者に報告しなければならない。

3 部局の連絡担当者は、必要に応じ、センターへ連絡しなければならない。

4 前項の障害報告に対し、センターは利用者に障害対策のための協力を求めることができる。

(専門委員会)

第16条 ネットワークの運用上、専門的な事柄について協議を行う必要がある場合は、運営委員会の議を経て、専門委員会を置くことができる。

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、ネットワークの管理運営に関し必要な事項は、責任者が別に定める。

附則

この規程は、平成13年5月23日から施行する。

○平成13年お茶の水女子大学規則第53号

お茶の水女子大学大学院学則の一部を改正する学則を次のように定める。

平成13年6月20日

お茶の水女子大学長 本 田 和 子

お茶の水女子大学大学院学則の一部を改正する学則

お茶の水女子大学大学院学則（昭和38年4月24日制定）の一部を次のように改正する。

第19条第1項中第7号を第8号とし、第4号から第6号までを一号ずつ繰り下げ、第3号の次に次の一号を加える。

四 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

同条第2項中第5号を第6号とし、第4号を第5号とし、第3号を第4号とし、第2号の次に次の一号を加える。

三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者

附 則

この学則は、平成13年6月20日から施行する。

○平成13年お茶の水女子大学規則第54号

お茶の水女子大学ホームページ運用指針を次のように定める。

平成13年6月20日

お茶の水女子大学長 本 田 和 子

お茶の水女子大学ホームページ運用指針

(理念)

第1 お茶の水女子大学では社会への情報発信のため、教育・研究及び入試情報等の公開に関するWeb(ウェブ)ページを開設します。

(目的)

第2 お茶の水女子大学Webページ(以下「お茶大ページ」という。)の円滑な運用を図るため、この指針を定めます。

(お茶大ページ)

第3 お茶大ページは、ホームページとそれにリンクする各部局ホームページで構成されます。

(管理・運用)

第4 お茶大ページのホームページの管理・運用は、お茶の水女子大学ホームページ運営委員会(以下「委員会」という。)が行います。

第5 ホームページにリンクする各部局ホームページの管理・運用は、当該部局のホームページ運営委員会が行います。

(公序良俗に反する記事等の禁止)

第6 お茶大ページへの記事の掲載は、教育・研究活動を支援する学術情報ネットワークの目的に沿ったものに限定しています。

例えば、公序良俗に反するもの、商業的行為や政治・宗教活動を目的とするもの、さらに、お茶大ページの健全な発展を阻害するような内容を掲載することは禁止しています。

(改善勧告)

第7 お茶大ページに掲載された記事の内容が、前項に反するものと当該委員会が判断したときは、それに対し、改善の勧告を行います。

(雑則)

第8 その他、ホームページの管理・運用について必要な事項は委員会が定めます。

附 則

この指針は、平成13年6月20日から施行する。

○平成13年お茶の水女子大学規則第55号

お茶の水女子大学ホームページ管理方針を次のように定める。

平成13年6月20日

お茶の水女子大学長 本 田 和 子

お茶の水女子大学ホームページ管理方針

(大学オフィシャルウェブサーバ)

第1 お茶の水女子大学に大学オフィシャルウェブサーバ(大学OWS(Official Web Server))を設置する。

(大学ホームページ運営委員会)

第2 お茶の水女子大学に、大学OWSの管理を行うため、お茶の水女子大学ホームページ運営委員会(以下「大学HP運営委員会」という。)を置く。

(部局・サブ組織)

第3 本方針において、「部局」とは、各学部、大学院人間文化研究科、附属図書館、ジェンダー研究センター、生活環境研究センター、留学生センター、各附属学校、事務局及び保健管理センターを、「サブ組織」とは、部局内の各組織(学科、専攻、研究室等)をいう。

(ホームページの公開)

第4 HP運営委員会を持たない部局及びサブ組織はホームページを公開することができない。

(大学ホームページ運営委員会の任務)

第5 大学HP運営委員会の任務は、次のとおりとする。

一 大学OWS内に、大学ホームページを作成すること。

二 大学ホームページから各部局OWS内にある部局ホームページへリンクを張り、ホームページを作成する枠を提供する。

三 部局ホームページの内容に関し、当該部局のHP運営委員会に対して改善を勧告できる。

(内容の改訂)

第6 大学OWSの内容の改訂は、大学HP運営委員会の承認を受けた者のみが行うこととする。

なお、改訂にあたっては、速やかに大学HP運営委員会委員長にその内容の承認を受けるものとする。

(部局オフィシャルウェブサーバ)

第7 各部局に、部局オフィシャルウェブサーバ(部局OWS)を設置する。ただし、各部局は、合同で、ひとつの部局OWSを設置することができる。

(部局ホームページ運営委員会)

第8 各部局は、当該部局OWSの管理を行うため、部局ホームページ運営委員会(以下「部局HP運営委員会」という。)を置く。ただし、各部局は、合同で、ひとつの部局HP運営委員会を設置することができる。

第9 各部局が合同で、ひとつの部局OWSを設置した場合、その内容に関しては、当該部局HP運営委員会が責任を持つこととする。

(部局ホームページ運営委員会の任務)

第10 部局HP運営委員会の任務は、次のとおりとする。

一 部局OWS内に、部局ホームページを作成すること。

二 部局ホームページから部局内サブ組織ホームページへリンクを張り、ホーム

ページを作成する枠を提供する。

三 各部局内委員会及び事務部からの情報を掲載すること。

四 リンクを張ったサブ組織ホームページの内容に関し、その掲載者に対して改善を勧告できるとともに、必要に応じてリンクを消去できる。

五 部局O W Sが適切に機能するように管理し、それが困難な場合は大学H P 運営委員会に速やかに報告する。

(掲載ウェブページに対する責任)

第11 掲載ウェブ(Web) ページの内容は、その掲載者が責任を負うものとし、各記事の掲載責任者は、掲載ページ内に、掲載者氏名、電子メールアドレス、掲載日を明記するものとする。

(リンクの消去)

第12 掲載者氏名、電子メールアドレス、掲載日を記載していないウェブページについては、当該組織H P 運営委員会はそのホームページからのリンクを消去できる。

(サブ組織ホームページの公開)

第13 サブ組織ホームページを公開する場合は、当該サブ組織H P 運営委員会が上位組織H P 運営委員会に連絡し、ホームページ作成に要する枠を得た後、本方針に従い公開する。

附 則

この方針は、平成13年6月20日から施行する。

○平成13年お茶の水女子大学規則第56号

お茶の水女子大学文書管理規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成13年6月22日

お茶の水女子大学事務局長 矢加部 英 敏

お茶の水女子大学文書管理規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学文書管理規程（昭和54年4月16日制定）の一部を次のように改正する。

第11条中「茶女大文第 号 文教育学部に属するもの」、「茶女大理第 号 理学部に属するもの」及び「茶女大活第 号 生活科学部に属するもの」を削り、「茶女大研第 号 大学院人間文化研究科に属するもの」を「茶女大研第 号 文教育学部、理学部、生活科学部及び大学院人間文化研究科に属するもの」に改める。

別記様式第4号中

「

学 長	事務局長 副学長	課 室	長 長 専 門 員	課長補佐 専 門 員	専 門 職 員	係 長 専 門 職 員
部 局 長 セ ン タ ー 長	校 園 長	教 頭	事 務 長	室 長		

主 任 ・ 係 員	起 案 者

「

学 長	事 務 局 長	
副 学 長	部 局 長 セ ン タ ー 長	校 園 長

」を

課 室	長 長	課 長 補 佐 専 門 員	専 門 職 員 係 長	主 任 係 員
教 頭	事 務 長 室 長	専 門 員		起 案 者

」に改める。

附 則

この規程は、平成13年7月1日から施行する。

人 事

○人事異動

発令年月日	氏名	官職等	異動前の所属・職名
◇ 退職			
H13.6.30	頼澤 彩	辞職承認	助手 (生活科学部)
◇ 昇任			
H13.6.1	石橋 玲子	教授 (茨城大学留学生センター)	助手 (大学院人間文化研究科)
◇ 配置換			
H13.5.1	高久 和也	学務課	総務課

◎非常勤講師

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
H13.5.1	鈴木 教之	講師 (理学部)	H13.9.30	理化学研究所研究員
H13.5.14	范 揚文	学校医 (保健管理センター)	H13.7.31	東京慈恵会医科大学附属病院医員
H13.5.15	藏田 英明	学校医 (保健管理センター)	H13.7.31	東京慈恵会医科大学附属病院医員
H13.5.18	小林 三佳	講師 (附属中学校)	H13.5.31	
H13.6.1	鈴木 真理子	学校医 (保健管理センター)	H14.3.31	
H13.6.21	金 玫志	講師 (附属幼稚園)	H13.11.8	

◎非常勤職員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
H13.5.1	木村 東花	教務補佐員 (文教育学部)	H14.3.31	
H13.5.1	中矢 由花	教務補佐員 (文教育学部)	H14.3.31	
H13.5.1	藤川 玲満	教務補佐員 (文教育学部)	H14.3.31	
H13.5.1	高屋敷 恭子	事務補佐員 (文教育学部)	H13.9.30	
H13.5.1	長井 尚子	教務補佐員 (文教育学部)	H14.3.31	
H13.5.1	天野 和佳	事務補佐員 (附属図書館)	H14.3.31	
H13.5.10	尾形 幸子	教務補佐員 (文教育学部)	H14.3.31	
H13.5.16	木元 麻里	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	西浦 麻美子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	井上 登喜子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	山本 博子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	金 英	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	清田 淳子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	丁 莉	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	石川 周子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	小柳 志津	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	櫻井 聖子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	篠塚 より子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	森田 淳子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	浦島 康代	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	糸野 幸子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	中村 浩子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	小林 久美子	リサーチ・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.3.31	
H13.5.16	村田 文子	教務補佐員 (理学部)	H14.3.31	
H13.5.16	梅澤 香代子	教務補佐員 (理学部)	H14.3.31	
H13.5.17	柳 美也子	教務補佐員 (文教育学部)	H14.3.31	
H13.5.25	中矢 由花	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	古木 亜希子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	林 青香	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	石岡 しずね	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	山本 綾	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	大理 奈穂子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	大木 直子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	青木 幸子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	井上 恵子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	林 紀子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	単 娜	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	向山 陽子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	尹 喜貞	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	伊藤 由紀恵	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	海口 奈津	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	橘 聡子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	武市 佳子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	齊藤 史	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	小川 智子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	斉藤 真生子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	澤本 ふみ	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	大江 洋代	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	池浦 綾子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	吉田 真咲	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	谷野 悦代	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	中里 明子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
H13.5.25	長井 邦恵	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	中村 悠子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	川崎 このみ	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	青木 由布	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	西原 亜矢子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	梅原 宣子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	和田 結香	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	今北 陽子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	井上 真奈	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	浅利 優子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	松永 祥世	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	山脇 澄子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	紺野 香織	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	細貝 国世	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	相川 幸子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	田宮 遊子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	舒 清霞	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	中村 実央	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	秋山 祐佳里	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	大久保 公美子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	大場 利絵子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	海老澤 薫	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	川口 聡子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	箕浦 栄美子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	岩田 淳子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	大塚 知恵	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	児玉 歩	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	平林 こずえ	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	浦滝 真理子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	沼田 みゆき	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	劉 曉琳	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	仲村 華織	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	杉原 加奈子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	中村 あすか	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	松本 菜々子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	白戸 悠香子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	石田 奈央子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	加藤 悠子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	中益 朗子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	宮下 宝	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	田島 麻美	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	太田 幸江	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	木村 梨香	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	中沢 美紗子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	金枝 直子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	中川 智恵	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	高橋 育子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	小橋 有子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	黒沢 享子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	三浦 佳子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	服部 麻衣子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	天野 綾子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	瀬川 真智子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	鈴木 桜子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	崔 艶	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
H13.5.25	佐瀬 理恵	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	吉田 美穂子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	中港 朋美	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	柳井 佳奈	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	窪田 美奈子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	谷口 陽子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	岩瀬 由佳	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	河野 智子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	田川 めぐみ	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	本間 由香利	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	和田 和子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	王 琳	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	福本 まあや	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	塩田 靖子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	小野 美紀子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	尾高 直子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	魏 浦嘉	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	池田 美千子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	丁 珍娥	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	金 亮我	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	金 志宣	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	尹 松	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	王 傑	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	泉 真由子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	畑山 愛	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	松崎 実穂	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	五十嵐 綾子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	竹沢 純子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	藤掛 洋子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H14.2.28	
H13.5.25	浜田 麻友子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	尾板 英子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	胡 小玲	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	佐々木 加代子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	池田 寛子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	大石 恭子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	菅井 志穂	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	木原 智子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	安藤 玲子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.5.25	佐藤 朋子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	H13.9.30	
H13.6.1	小島 孝子	事務補佐員 (理学部)	H14.3.31	
H13.6.1	花岡 ナホミ	教務補佐員 (ジェンダー研究センター)	H14.3.31	
H13.6.1	佐々井 真知	事務補佐員 (学生課)	H14.3.31	
H13.6.1	中山 靖子	事務補佐員 (学生課)	H14.3.31	
H13.6.1	吉田 ちいほ	事務補佐員 (学生課)	H14.3.31	
H13.6.16	松澤 純子	事務補佐員 (文教育学部)	H14.3.31	
H13.6.16	清水 彩世	事務補佐員 (文教育学部)	H14.3.31	
H13.6.16	中村 若生	教務補佐員 (ジェンダー研究センター)	H14.3.31	
◇ 退職				
H13.5.7	森島 麻衣子	事務補佐員 (文教育学部)		
H13.5.31	稲田 文子	事務補佐員 (理学部)		
H13.5.31	荻野 正恵	教務補佐員 (ジェンダー研究センター)		
H13.6.30	石黒 輝美	事務補佐員 (附属図書館)		
H13.6.30	猪阪 久未子	事務補佐員 (文教育学部)		
H13.6.30	天野 冴子	教務補佐員 (生活科学部)		

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
H13.6.30	三宅 紀子	技術補佐員 (生活環境研究センター)		
H13.6.30	横山 知子	事務補佐員 (生活環境研究センター)		
H13.6.30	川口 聡子	テーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)		

学 事

○平成14年度お茶の水女子大学理学部第3年次編入学学生募集要項

お茶の水女子大学理学部では、平成8年度から第3年次編入学試験を実施しています。

本学部では、社会における女性の地位向上と相まって要請されている、高度な学識と広い視野を持つ女子学生の育成を目指してきました。高等教育の多様化の一環として、既に社会人として活躍しておられる方々のリカレント教育や、短期大学・高等専門学校を卒業して更に深い専門知識を求めようとする方に、より高度な理学部専門教育の機会を提供することが、この制度の趣旨であります。

これが、自然科学の修学を目指す女性の方々の更なる高みへの飛翔の出発点となることを期待いたします。

お茶の水女子大学理学部履修概要

1. 履修方法及び課程の修了

- (1) 卒業するためには、本学理学部履修規程に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。
- (2) 本学部に編入学前に在学した大学等において修得した単位については、本学部の定める基準に従って卒業要件単位として認定する。
- (3) 卒業に必要な単位を修得した者については、学士（理学）の学位を授与する。

2. 各学科の授業科目

学 科	専 攻 科 目 (必 修)
数 学 科	初等代数学, 線形代数, 同演習, 微分積分学, 同演習, 微分積分学統論, 同演習, 線形代数統論, 幾何学序論, 同演習, 位相空間論, 同演習, 離散数学, 同演習, 関数論, 同演習, 現代数学講話, 数学講究
物 理 学 科	古典力学, 解析力学, 力学系理論, 電磁気学Ⅰ・Ⅱ, 物理数学Ⅰ・Ⅱ, 数理物理学, 量子力学Ⅰ・Ⅱ, 多体系量子力学, 熱・統計力学, 量子統計力学, 固体電子論, 相転移物理学, 凝縮系物理学, 原子核物理学, 素粒子物理学, 基礎物理学実験, 物理学実験, 特別研究
化 学 科	基礎物理化学Ⅰ・Ⅱ, 定量分析化学・化学平衡論, 構造有機化学Ⅰ・Ⅱ, 基礎無機化学Ⅰ・Ⅱ, 構造生化学, 構造物理化学, 物性物理化学, 機器測定法, 反応有機化学, 構造無機化学, 生体分子反応学, 分子分光学, 基本化学実験, 無機化学実験, 分析化学実験, 有機化学実験, 物理化学実験, 生物化学実験, 化学演習, 特別研究
生 物 学 科	基礎生物学A・B, 生化学, 生物物理学, 動物系統学, 植物形態学, 植物生理学Ⅰ, 基礎遺伝学, 分子細胞生物学, 細胞生物学Ⅰ, 動物生理学, 発生生物学Ⅰ, 生物学実習Ⅰ・Ⅱ
情 報 科 学 科	線形代数, 微分積分学, 数理基礎論, 計算機システム序論, データ構造とアルゴリズム, 確率序論, 関数論, 離散数学, プログラム作成実習, 自然情報基礎論Ⅰ・Ⅱ, 数値計算, 情報理論, 計算基礎論, オペレーティングシステム, 言語理論とオートマトン, 特別研究

※ 上記授業科目以外に、専攻科目（選択）、関連科目が多数開講されている。

I. 一般選抜

1. 募集人員

学 科	募 集 人 員
数 学 科	社会人特別募集 とあわせて 10名
物 理 学 科	
化 学 科	
生 物 学 科	
情 報 科 学 科	

2. 出願資格

次のいずれかに該当する女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成14年3月卒業見込みの者
- (2)短期大学を卒業した者及び平成14年3月卒業見込みの者
- (3)高等専門学校を卒業した者及び平成14年3月卒業見込みの者
- (4)平成14年3月までに本学以外の大学に2年以上在学し、62単位以上修得見込の者
- (5)大学に2年以上在学し、62単位以上修得した者
(平成14年3月本学卒業見込みの者以外で本学在学中の者は除く。)
- (6)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び修了見込みの者

3. 出願期間

平成13年6月4日(月)から平成13年6月8日(金)まで。 (6月8日消印有効)

4. 出 願 手 続

(1) 提 出 書 類 等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業（見込）証明書、又は在学証明書	
成績証明書（履修中の科目も記載すること。）	
健康診断書	本学所定の用紙（現在、大学・短大・高等専門学校等に在学中の者は、学校医による証明も可とする。）
検 定 料	30,000 円〔郵便局振出しの 普通為替証書（受け取り人指定欄に、お茶の水女子大学とのみ記入すること。）〕
受験票返送用封筒	本学所定の受験票返送用封筒に送付先を明記して、350円分の切手（速達料を含む）を貼ること。
宛名シール	合格通知に使用するのので、確実に受け取れる住所を記入すること。

(2) 出 願 方 法

出願書類を一括して出願用封筒に入れ、必ず「書留」扱いで本学入試課宛に郵送すること。

〒 112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学入試課

5. 選 抜 方 法

入学者の選抜は、学力検査（筆記試験・口述試験）及び成績証明書等を総合して判定する。

学科名	6月27日（水）	
	試験科目	時 間
数 学 科	数 学*	10:00～12:00
	英 語	13:00～14:00
	口述試験	15:00～
物 理 学 科	数 学	9:00～10:30
	物 理 学	10:40～12:10
	口述試験	13:30～
化 学 科	化 学	10:00～12:00
	英 語	13:00～14:00
	口述試験	15:00～
生 物 学 科	生 物 学	10:00～12:00
	英 語	13:00～14:00
	口述試験	15:00～
情 報 科 学 科	数 学	9:00～10:30
	情 報**	10:40～12:10
	英 語	13:00～14:00
	口述試験	15:00～

* 微分・積分，行列と行列式

** 基本情報技術者試験程度

II. 社会人特別選抜

1. 募集人員

学 科	募 集 人 員
数 学 科	} 一般編入学募集 とあわせて 10名
物 理 学 科	
化 学 科	
生 物 学 科	
情 報 科 学 科	

2. 出 願 資 格

入学時に社会人としての経験を1年以上有し、次のいずれかに該当する女子とする。

- (1)大学を卒業した者
- (2)短期大学を卒業した者
- (3)高等専門学校を卒業した者
- (4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者

なお、入学時において現職のまま入学しようとする者は、入学手続の際に企業等の所属長が作成した入学承諾書（様式随意）を提出すること。

3. 出 願 期 間

平成13年6月4日（月）から平成13年6月8日（金）まで。 （6月8日消印有効）

4. 出 願 手 続

(1) 提出書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業証明書	と 成績証明書
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	30,000 円 [郵便局振出しの 普通為替証書 (受け取り人指定欄に、お茶の水女子大学とのみ記入すること。)]
受験票返送 用封筒	本学所定の受験票返送用封筒にあて先を明記して、350円分の切手 (速達料を含む) を貼ること。
宛名シール	合格通知に使用するので、確実に連絡が取れる住所を記入すること。

(2)出 願 方 法

出願書類を一括して出願用封筒に入れ、必ず「書留」扱いで本学入試課宛に郵送すること。

〒 112-8610 東京都文京区大塚 2丁目 1番 1号
お茶の水女子大学入試課

5. 選 抜 方 法

入学者の選抜は、学力検査（筆記試験・口述試験）及び成績証明書等を総合して判定する。
なお、詳細については、入試課へ問い合わせること。

学科名	6月27日(水)	
	試験科目	時 間
数 学 科	数 学*	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
物 理 学 科	数 学	9:00~10:30
	物 理 学	10:40~12:10
	口述試験	13:30~
化 学 科	化 学	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
生 物 学 科	生 物 学	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
情 報 科 学 科	数 学	9:00~10:30
	情 報**	10:40~12:10
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~

* 微分・積分，行列と行列式

** 基本情報技術者試験程度

Ⅲ. 合格発表等

1. 合格者の発表

(1) 7月5日(木)正午(予定)

学内本部棟前掲示板に掲示するとともに、合格者には「合格通知書」を郵送する。

電子郵便による「合格者受験番号表」の申込について

合格発表についての電話等による問い合わせには一切応じないので、合格発表掲示の確認ができない者は、電子郵便の申込をすること。

電子郵便には合格者全員の受験番号が記載されているので、これに受験番号が載っていない場合は不合格である。

申込は出願書類を郵送する際、本学所定の用紙に必要事項を記入のうえ、580円分の切手を貼付して提出すること。(電子郵便の宛て先は、必ず本人が受け取ることのできる住所とし、提出後のあて先の変更はできない。)

電子郵便は合格発表日中に到着する予定であるが、万一、未着の場合は小石川郵便局〔電話03(3815)7155・7156〕へ直接問い合わせること。

(2) 入学手続

入学手続関係書類は、平成13年11月中旬頃に送付する。

入学手続は平成13年12月中旬に郵送により行う。

2. 入学料及び授業料

(1) 入学料 277,000円(改定予定)

(2) 授業料年額 496,800円(在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用される。)

3. 修学条件

入学の時期は平成14年4月とし、編入学後2年以上4年以内に本学理学部履修規程に定める授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者については、学士(理学)の学位を授与する。

4. その他

(1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。

(2) 別途、この「第3年次編入学試験学生募集要項」を請求する場合は、角型2号(23.9×33.1cm)の返信用封筒に宛名を明記し240円分の切手を貼ったものを同封し、請求する封筒の表に「第3年次編入学試験学生募集要項請求」と朱書きのうえ、請求してください。

5. 「大学案内」の請求

理学部各学科等の紹介は「お茶の水女子大学大学案内」の冊子に記載されている。

「大学案内」の送付を希望する場合は、角型2号(23.9×33.1cm)の返信用封筒に宛名を明記し240円分の切手を貼ったものを同封し、請求する封筒の表に「大学案内請求」と朱書きのうえ、請求してください。

○募集要項、大学案内請求先 〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学入試課

6. 出願状況

出願状況は、平成13年6月5日（火）から本学ホームページ内の「入学試験情報」において公表することを予定している。

お茶の水女子大学ホームページURL <http://www.ocha.ac.jp/>

7. 平成13年度編入学試験実施状況

学 科	募集人員		志願者数		合格者数		入学者数	
	一 般	社会人	一 般	社会人	一 般	社会人	一 般	社会人
数 学 科	} 全学科で あわせて 10名		4	0	1	0	1	0
物 理 学 科			3	0	2	0	2	0
化 学 科			12	1	3	0	3	0
生 物 学 科			17	4	3	2	2	1
情 報 科 学 科			8	2	1	1	1	1
合 計		10名	44	7	10	3	9	2

○平成14年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）
学生募集要項

1. 募集人員

専攻	入学定員	募集人員（一般選抜）	募集人員（社会人特別選抜）	
			人数	コース
言語文化専攻	32名	*32名	5名	日本語教育コース
人文学専攻	28名	28名		
発達社会科学専攻	43名	*43名	若干名	社会臨床論コース
ライフサイエンス専攻	45名	45名		
物質科学専攻	23名	23名		
数理・情報科学専攻	25名	*25名	若干名	情報科学コース及び応用数理コース
計	196名	196名		

* 募集人員には、社会人特別選抜の募集人員を含む。

2. 試験期日

専攻	9月入試	2月入試
	試験期日	試験期日
言語文化専攻	/	平成14年2月7日(木)・8日(金) 日本語教育コースのみ 2月7日(木)・8日(金)・9日(土)
人文学専攻		平成14年2月7日(木)・8日(金)
発達社会科学専攻	※ 平成13年8月30日(木) 8月31日(金)	
ライフサイエンス専攻	平成13年8月30日(木)	平成14年2月7日(木)
物質科学専攻	平成13年8月30日(木) 8月31日(金)	
数理・情報科学専攻		

※ 社会臨床論コース（社会人特別選抜）のみ。

3. 出願期間

9月入試：平成13年7月31日（火）～8月 3日（金）【必着】

（ただし、8月2日以前の消印のあるものに限り、期限後に到着した場合でも受理する）

2月入試：平成14年1月 8日（火）～1月11日（金）【必着】

（ただし、1月10日以前の消印のあるものに限り、期限後に到着した場合でも受理する）

（注）言語文化専攻、人文学専攻及び発達社会科学専攻（一般選抜）は、9月入試は実施しない。

4. 出願方法

* 本学所定の封筒に出願書類を一括し、本学所定の封筒を用い書留速達で下記宛に郵送すること。

〒 112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学入試課

* 封筒の志望専攻欄に『志望専攻』を記入すること。

* 受験票は、受験者心得・試験場所等を同封の上、後日郵送する。

5. 出願資格

一般選抜又は社会人特別選抜の項目を参照すること。

6. 選考方法

入学者の選考は、「筆記試験」及び「口述試験」並びに成績証明書等の出願書類を総合して行う。

なお、詳細については、一般選抜又は社会人特別選抜の項目を参照すること。

7. 試験場所

9月入試： お茶の水女子大学文教育学部、理学部、生活科学部、人間文化研究科

2月入試： お茶の水女子大学文教育学部、理学部、生活科学部、人間文化研究科

8. 合格発表

9月入試： 平成13年9月 7日（金）

2月入試： 平成14年2月18日（月）

(1) 12時頃に大学院人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。

(2) 合格通知書は、本部棟2階入試課で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）

なお、当日、受領できない者については郵送する。（翌日午後発送予定）

9. 検定料・入学金・授業料

検定料：30,000円 入学金：282,000円 授業料：496,800円（年額）

（在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。）

10. 入学手続関係書類

9月入試： 平成14年2月下旬に郵送する。

2月入試： 合格通知書に同封する。

* 合格通知後、住所を変更した場合は、必ず入試課へ届け出ること。

11. 注意事項

(1) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。

(2) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

12. 問い合わせ先

〒 112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学入試課

TEL 03(5978)5697

専攻及びコースの概要

◎ 言語文化専攻

人間の基本的営為の一つである言語活動とそれに基づいて営まれている様々な文化現象について、高度で総合的な研究を行う。

具体的には、日本語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語のそれぞれの言語と、これらの言語を用いて営まれている文学をはじめとする文化活動を、あるいは個別に深く分析し、あるいは比較対照的に幅広く考察する。

さらに、国内外で活躍できる日本語教育・研究の専門家の養成を行う。

○ 日本語文化学

多様な方法論に基づいて、各時代・分野ごとに日本文学および日本語について深く研究し、日本文化の精髓にせまる。

○ アジア言語文化学

中国大陸、台湾、香港、東南アジアなど、中国語圏における言語と文学を主要な研究対象とする。中国古典の伝播と受容といった比較文化論の研究や、中国語と他言語の対照的研究も行う。

○ 英語圏・欧州言語文化学

英米文学を中心として広く英語圏の文学と文化および英語学を研究する英語圏言語文化専修と、仏文学を中心として広く仏語圏の文学と文化および仏語学を研究する仏語圏言語文化専修に分かれるが、その共通の姿勢として、独語圏を含む各言語圏のあいだの比較対照など、総合的に研究することも留意する。語学の分野では、英語学・仏語学とともに、第二言語教授法などの実用面の研究を併せて行う。

○ 日本語教育

国際的に広い視野に立って、日本語教育に対する高度且つ多様な要望にこたえうる日本語教育学の研究者並びに実践的日本語教員の養成と、日本語教育社会人の再教育を行う。

◎ 人文学専攻

哲学・史学・生活文化学などの狭い意味での人文諸学に、身体活動を中核とした芸術系の分野を加え、人文諸学の領域の拡大を図るとともに、それら細分化していた教育・研究体制を統合することにより、身体活動をふくむ人間の文化活動を歴史的かつ共時的に幅広くとりあげ、総合的に探究することをめざす。

○ 思想文化学

本コースは「哲学」と「倫理学」（「日本倫理思想史」）に分かれている。「哲学」は主に西洋哲学を対象とするが、特に議論を通して様々な理論や具体的な問題について根本的かつ緻密に考える能力の養成に重点をおいた教育を行う。

「日本倫理思想史」は、神道、仏教、儒教を中心とする文献講読や調査を基に、広く日本思想の本質を探究することをテーマとした教育研究を行う。

○ 歴史文化学

近代ヨーロッパ美術と南アジアの仏教美術を主とする美術史学と日本・東洋・西洋を対象とする歴史学をドッキングさせることによって、文字資料に造形資料、視覚資料の分析を加えて総合した多角的な研究を目指す。

○ 服飾文化学

近年、日本および欧米で服飾研究への高い関心が認められる状況をふまえ、服飾と工芸を中心に、時代、社会地域などの関わりのなかで、その美意識や生活感情の解明について研究を行う。

○ 舞踊・表現行動学

舞踊並びに人間の表現行動について、芸術、民族、教育などの学際的な視点から総合的に教育・研究を行う。実践をふまえ、理論的、科学的知見を十分に習得した専門的人材（研究者、指導者、上演者など）を育成する。

○ 音楽表現学

音楽を文化表象として、理論と実践の双方から研究する。理論面では、日本を含めた世界の諸文化や音楽と社会との関連を扱う。実践面では、西洋近代の鍵盤音楽と声楽を中心的な対象にして、身体行動による表現技術の研究を実証的に行い、国際的に通用する演奏者を養成する。

◎ 発達社会科学専攻（発達人間科学系）

社会的かつ個人的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育学、心理学、社会学等をベースとして、学際的にアプローチする。社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会－人間－発達を総合的・有機的に結びつける理論と、経験科学的方法論を探究する。

○ 教育学

人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。

基礎科学・方法論として、教育人間学、比較教育文化史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として、教育行財政学、教育方法学、生涯学習論、博物館学を設置する。

○ 心理学

心理学コースでは、健全な人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多次的・総合的に検討し理解する。

そのために次のような授業科目を設けている。「心理社会行動論」、「心理発達論」、「人格形成論」、「認知システム論」、「認知科学基礎論」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本コースの目的である。

○ 発達臨床心理学

発達臨床心理学の教育及び研究を行う。臨床心理学を柱として、特に家庭や学校・幼稚園や病院等の場における心理臨床的かつ発達のな問題について専門的に対処する力を養成するとともに、発達臨床心理学の研究を行う基礎的な研究能力を養う。

○ 応用社会学

現代社会の諸問題（家族・地域、コミュニケーションの問題など）を社会的に研究する。

人間関係、職業集団、ネットワークを扱う「社会集団論」、逸脱、差別、コミュニケーションを扱う「社会意識論」、福祉政策、社会問題を扱う「社会福祉論」などを開講する。

○ 社会臨床論

不適応やストレスなど、子どもや教師・親の抱える諸問題を理解する上で、現在何より求められているのは、それをとりまく社会の文化的・歴史的状況を踏まえた理解である。社会臨床論コースは、このような臨床場面と社会との関連を重視する新たな分野であり、研究者志望者だけでなく、実務家志望者にとっても大いに得るものがあると思われる。

対象は乳幼児から青少年、成人まで含み、またスタッフの学問的背景も、文化心理学、教育社会学、保育学、家政学など多様である。授業では、これらの学問の見地から、諸問題について理解が深められるとともに、それらを解明するための方法論の習得が目指される。

◎ 発達社会科学専攻（生活・開発科学系）

「人間・文化と自然環境」と「人間の生活の質」とは、従来の学問の領域区分ではほとんど独立に捉えられてきたが、「開発」及び「ジェンダー」という両者を通貫する視点によって、新たな展開を遂げようとしている。すなわち、あらゆるレベルでの相互依存性が強まった現代社会特有の問題－代表的な事例は地球環境問題や、男女共同参画型社会形成など－に的確に対処するには、既存の価値基準・行動規範を乗り越えることが必要である。これらの現実を見定めた教育研究体制の整備と、それによる人材の育成が急務である。これは同時に従来の学問研究の枠組みを再検討することにもなる。

○ 生活政策学

高齢社会化、生活をめぐる諸価値の多様化、生活のグローバル化、女性の社会的活動領域の拡大の中で生ずる生活・家族・女性に関する諸問題を、法学・政治学・経済学・社会学の各分野から研究する。

開講科目は、生活法社会学論、生活政治論、法女性論、消費者問題論、生活経済論、長寿社会学論、生活福祉論、家族関係論、生活情報論 など。家庭科教育学特論を履修して家庭科教員専修免許状も取得できる。

○ 地理環境学

地理環境学コースの主要な関心は、現実の世界において空間的に展開している人間－環境関係である。自然地理学及び人文地理学の観点から、この関係を分析する方法論、並びにデータないしは情報の収集・分析に関する講義・演習が開講されている。

○ 開発・ジェンダー論

従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、新たな学際的研究の可能性を追求する。理論的分析に加え、開発や国際協力など応用分野を含めた、多様な関心と能力を持った学生を育成することを目指し、日本でも他に例を見ない独自のコースとして、内外の社会的要請に応えるものである。

ジェンダー概念の成立と現在の論点を検討する「ジェンダー開発論」、ジェンダー概念を比較文化的に研究する「ジェンダー文化論」、ジェンダーの視点から社会政策を検討する「女性政策論」、女性の視点から経済学の枠組みを再構築する「フェミニスト経済学」、社会開発・人間開発の諸過程を地球規模の視野で比較検討する「比較ジェンダー開発論」、途上国と先進国を事例に国家の開発政策とその有効性を考える「地域開発政策論」、地域研究とフィールドワークとの関係を再考する「開発地域文化論」などを開講する。

◎ ライフサイエンス専攻 (生活科学系)

人間の生命活動である生活は文化的なものであり、生活のあらゆる面にわたって他生物とは異なる様相が見られる。中でも、自然環境としてのいろいろな物質や他の生物を技術により利用し、人間の衣食住などの日常生活に役立てている点は、生活の物質的基盤を与えるものとして大変重要であり、この方面における学問的発展は全人類から期待されている。そのために、食品科学、栄養科学の他、人間生活工学、環境生活工学、さらにこれらの基礎となる生物としての人間そのものを探求する生物人間科学の計5コースを置き、専門的教育研究を行う。

○ 食品科学

食品は栄養素の供給と共に、人間の生活を安全に豊かなものにする役割をになっている。食品の嗜好性を決める因子は多岐にわたっており、最新の物理的、化学的解析手法を駆使して、食品組織の状態の解明、味や香りなどの嗜好成分の分析などにより、食嗜好を客観的に評価する手法、研究体系の確立をめざす。

また、新しい食品加工技術としてのバイオテクノロジーや食品工学の手法を導入し、食資源確保の観点から加工・貯蔵の新方法を検討する。これらの研究領域を統合して最終的には、それらを食品として摂取する人間の受容機構を明らかにし、現代の我が国で起きている食に関するさまざまな問題点の解決をはかる。

○ 栄養科学

健康の維持・増進には、栄養状態や身体の恒常性維持が重要である。生体内における食物成分の変化や動態、そして、栄養素の代謝と機能について理解を深めるとともに、食品成分の栄養生理機能、生体調節機能、ストレスに対する生体防御機構などの解析を中心に教育・研究を行う。これら栄養素の生体内において果たす役割を背景とし、老化や成人病の予防・発症の遅延、そして、自然環境の変化を含む各種ストレスに対する生体の適応反応について、食物の摂取による代謝調節や制御、食生活や生活行動に基づく健康維持への効果を含めて解説する。

○ 人間生活工学

住居・都市を取り巻く音熱、光、空気について我々の生活に及ぼす影響や、人工的環境を創造する空気調和・衛生工学、エネルギー問題、地球環境問題と住居の関わりについて探究する。さらに、生活や環境における諸現象・諸問題を物理的・工学的観点より研究する。工学技術を用いた各種生活支援機器・システムの設計及び評価手法に関する研究を行う。

○ 環境生活工学

人間の生活を直接支持かつ支配している生活材料・生活環境を研究・教育の対象としている。生活材料としては特に、消臭材料や高吸水性材料などについて必要な機能・物性、最適な設計、開発手法、そしてこれらの材料に関する工学的成果をいかに生活に活かすかを検討している。

また、洗浄や染色・仕上げ加工の機構など、繊維製品の取り扱いに関連した基礎的事項の究明を目指している。生活環境としては、必須因子である水について、人間にとって安全かつ快適な水環境を構築していくための方法論及びその評価方法などについて工学的に取り扱っている。

○ 生物人間科学

人間は生活の主体であり、生活をよりよいものとするためには人間そのものについての理解を深めることが極めて大切である。

本コースは人類としての人間を自然科学的に探究することを目指し、その身体的側面を中心とした本質、由来変異、適応などのデータ収集と分析を行い、生物としての人間すなわち人類、ヒトに関する専門教育研究を行うが、そのことにより、優れた生活用品の開発や心身の健康増進にも新しい視野を与えることが期待される。

① ライフサイエンス専攻 (生命科学系)

生命科学系は、地球上の生物に共通して見られる生命現象を解明し、生命の起源以来三十数億年の間進化してきた多様性と独自性を特徴とする生命とは何かを追求する生物学に関する教育・研究を行う。

さらには、食物・健康・環境などの諸問題と取り組む基本となる新しい先端科学技術を捉え直す基盤形成をも目指して研究・教育を行う。

○ 分子生物学

分子生物学を基盤として、生体物質の生化学・物理化学的解析方法や遺伝子操作を含む細胞工学・遺伝子工学的手法を総合し、動植物にかかわる基本的、かつ、高次な生物現象を分子レベルまで掘り下げて解析することを中心に研究・教育を行う。

糖鎖分子・糖質分子科学、生化学、分子生理学、分子遺伝学、分子細胞生物学などの学問分野が含まれる。

○ 生命体科学

生命現象の背後には、生体調節や生体防御に関する大小さまざまなシステムがあり、生物種によって著しく多様化、複雑化している。

本コースでは、生命体活動の基本素子となる生体分子の構造と機能の研究を基盤とし、細胞、組織、器官及びシステムとして構成される個体レベルの構造と機能、さらには、そうした仕組みの進化にわたる多角的な研究・教育を行う。生理学、発生学、遺伝学、進化学などの学問分野が含まれる。

② 物質科学専攻

ミクロから宇宙スケールにおよぶ物質の構造と形成過程、フェムト秒から億年にわたる現象のダイナミクスなど、物質が示すあらゆる性質を解明し予測することを目的に、物理学と化学によるアプローチを総合して研究・教育を行う。

○ 相関物質科学

相転移、パターン形成、溶液の構造、ガラス、磁気スピングラス、非線形反応などの非線形・非平衡系について、物理・化学の両面から、統合的な教育・研究を行う。

○ 分子科学

分子や分子集団の構造、物性及び反応に関する理論と実験についての教育・研究を行う。

○ 物理学

究極の物質構成単位の素粒子から、その集合体の原子・分子・結晶、さらに宇宙の構造までを支配する原理・法則を探究する実験と理論の研究・教育を行う。

③ 数理・情報科学専攻

数学と情報科学は互いに連携しつつ、自然科学のみならず広範な領域での現象の解明に不可欠な基盤となっており、また幅広い分野で活用されている。本専攻では、様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開、数学とコンピュータによる自然科学諸分野の現象の数理科学的解明、様々な分野の情報に対するコンピュータによる接近法及び得られた情報の表現法の開発等に関する高度な専門教育と研究を行う。

○ 情報科学

コンピュータによるデータの処理に関連する基礎研究及びその自然科学分野への応用に関する教育・研究を行う。

○ 応用数理

情報科学の基礎づけや計算機支援による理学研究に関わる分野での数理科学の教育・研究を行う。

○ 数 学

様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開に関する高度な専門教育と研究を行う。

○平成14年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）
外国人留学生学生募集要項

1. 募集人員・試験期日

専攻	募集人員	9月入試	2月入試
		試験期日	試験期日
言語文化専攻	若干名		平成14年2月7日(木)・8日(金) 日本語教育コースのみ 2月7日(木)・8日(金)・9日(土)
人文学専攻	若干名		平成14年2月7日(木)・8日(金)
発達社会科学専攻	若干名		
ライフサイエンス専攻	若干名	平成13年8月30日(木)	平成14年2月7日(木)
物質科学専攻	若干名	平成13年8月30日(木) 8月31日(金)	
数理・情報科学専攻	若干名		

2. 出願期間

9月入試：平成13年7月31日(火)～8月3日(金)【必着】

(ただし、8月2日以前の消印のあるものに限り、期限後に到着した場合でも受理する)

2月入試：平成14年1月8日(火)～1月11日(金)【必着】

(ただし、1月10日以前の消印のあるものに限り、期限後に到着した場合でも受理する)

(注)言語文化専攻、人文学専攻及び発達社会科学専攻は、9月入試は実施しない。

3. 出願方法

*本学所定の封筒に出願書類を一括し、本学所定の封筒を用い書留速達で下記宛に郵送すること。

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学入試課

*封筒の志望専攻欄に『志望専攻』を記入すること。

*受験票は、受験者心得・試験場所等を同封の上、後日郵送する。

4. 出願資格・出願手続

選抜方法等の項目を参照すること。

5. 選考方法

入学者の選考は、「筆記試験」及び「口述試験」並びに成績証明書等の出願書類を総合して行う。

なお、詳細については選抜方法等の項目を参照すること。

6. 試験場所

9月入試：お茶の水女子大学文教育学部、理学部、生活科学部、人間文化研究科

2月入試：お茶の水女子大学文教育学部、理学部、生活科学部、人間文化研究科

7. 合格発表

9月入試：平成13年9月7日（金）

2月入試：平成14年2月18日（月）

（1）12時頃に大学院人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。

（2）合格通知書は、本部棟2階入試課で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）

なお、当日、受領できない者については郵送する。（翌日午後発送予定）

8. 検定料・入学料・授業料

検定料：30,000円 入学料：282,000円 授業料：496,800円（年額）

（国費留学生は免除される場合があるので、国費証明書持参の上、出願の際に申し出ること。

また、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。）

9. 入学手続関係書類

9月入試：平成14年2月下旬に郵送する。

2月入試：合格通知書に同封する。

* 合格通知後、住所を変更した場合は、必ず入試課へ届け出ること。

10. 注意事項

(1)出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。

(2)合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

11. 問い合わせ先

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学入試課

Tel 03(5978)5697

専攻及びコースの概要

① 言語文化専攻

人間の基本的営為の一つである言語活動とそれに基づいて営まれている様々な文化現象について、高度で総合的な研究を行う。

具体的には、日本語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語のそれぞれの言語と、これらの言語を用いて営まれている文学をはじめとする文化活動を、あるいは個別的に深く分析し、あるいは比較対照的に幅広く考察する。

さらに、国内外で活躍できる日本語教育・研究の専門家の養成を行う。

○ 日本語文化学

多様な方法論に基づいて、各時代・分野ごとに日本文学および日本語について深く研究し、日本文化の精髓にせまる。

○ アジア言語文化学

中国大陸、台湾、香港、東南アジアなど、中国語圏における言語と文学を主要な研究対象とする。中国古典の伝播と受容といった比較文化論的研究や、中国語と他言語の対照的研究も行う。

○ 英語圏・欧州言語文化学

英米文学を中心として広く英語圏の文学と文化および英語学を研究する英語圏言語文化専修と、仏文学を中心として広く仏語圏の文学と文化および仏語学を研究する仏語圏言語文化専修に分かれるが、その共通の姿勢として、独語圏を含む各言語圏のあいだの比較対照など、総合的に研究することも留意する。語学の分野では、英語学・仏語学とともに、第二言語教授法などの実用面の研究を併せて行う。

○ 日本語教育

国際的に広い視野に立って、日本語教育に対する高度且つ多様な要望にこたえうる日本語教育学の研究者並びに実践的日本語教員の養成と、日本語教育社会人の再教育を行う。

② 人文学専攻

哲学・史学・生活文化学などの狭い意味での人文諸学に、身体活動を中核とした芸術系の分野を加え、人文諸学の領域の拡大を図るとともに、それら細分化していた教育・研究体制を統合することにより、身体活動をふくむ人間の文化活動を歴史的かつ共時的に幅広くとりあげ、総合的に探究することをめざす。

○ 思想文化学

本コースは「哲学」と「倫理学」（「日本倫理想史」）に分かれている。「哲学」は主に西洋哲学を対象とするが、特に議論を通して様々な理論や具体的な問題について根本的かつ緻密に考える能力の養成に重点をおいた教育を行う。

「日本倫理想史」は、神道、仏教、儒教を中心とする文献講読や調査を基に、広く日本思想の本質を探究することをテーマとした教育研究を行う。

○ 歴史文化学

近代ヨーロッパ美術と南アジアの仏教美術を主とする美術史学と日本・東洋・西洋を対象とする歴史学をドッキングさせることによって、文字資料に造形資料、視覚資料の分析を加えて総合した多角的な研究を目指す。

○ 服飾文化学

近年、日本および欧米で服飾研究への高い関心が認められる状況をふまえ、服飾と工芸を中心に、時代、社会地域などの関わりのなかで、その美意識や生活感情の解明について研究を行う。

○ 舞踊・表現行動学

舞踊並びに人間の表現行動について、芸術、民族、教育などの学際的な視点から総合的に教育・研究を行う。実践をふまえ、理論的、科学的知見を十分に習得した専門の人材（研究者、指導者、上演者など）を育成する。

○ 音楽表現学

音楽を文化表象として、理論と実践の双方から研究する。理論面では、日本を含めた世界の諸文化や音楽と社会との関連を扱う。実践面では、西洋近代の鍵盤音楽と声楽を中心的な対象にして、身体行動による表現技術の研究を実証的に行い、国際的に通用する演奏者を養成する。

◎ 発達社会科学専攻（発達人間科学系）

社会的かつ個人的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、社会学等をベースとして、学際的にアプローチする。社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会－人間－発達を総合的・有機的に結びつける理論と、経験科学的方法論を探究する。

○ 教育科学

人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。

基礎科学・方法論として、教育人間学、比較教育文化史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として、教育行財政学、教育方法学、生涯学習論、博物館学を設置する。

○ 心理学

心理学コースでは、健全な人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多角的・総合的に検討し理解する。

そのために次のような授業科目を設けている。「心理社会行動論」、「心理発達論」、「人格形成論」、「認知システム論」、「認知科学基礎論」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本コースの目的である。

○ 発達臨床心理学

発達臨床心理学の教育及び研究を行う。臨床心理学を柱として、特に家庭や学校・幼稚園や病院等の場における心理臨床的かつ発達のな問題について専門的に対処する力を養成するとともに、発達臨床心理学の研究を行う基礎的な研究能力を養う。

○ 応用社会学

現代社会の諸問題（家族・地域、コミュニケーションの問題など）を社会学的に研究する。

人間関係、職業集団、ネットワークを扱う「社会集団論」、逸脱、差別、コミュニケーションを扱う「社会意識論」、福祉政策、社会問題を扱う「社会福祉論」などを開講する。

○ 社会臨床論

不適応やストレスなど、子どもや教師・親の抱える諸問題を理解する上で、現在何より求められているのは、それをとりまく社会の文化的・歴史的状況を踏まえた理解である。社会臨床論コースは、このような臨床場面と社会との関連を重視する新たな分野であり、研究者志望者だけでなく、実務家志望者にとっても大いに得るものがあると思われる。

対象は乳幼児から青少年、成人まで含み、またスタッフの学問的背景も、文化心理学、教育社会学、保育学、家政学など多様である。授業では、これらの学問的見地から、諸問題について理解が深められるとともに、それらを解明するための方法論の習得が目指される。

◎ 発達社会科学専攻（生活・開発科学系）

「人間・文化と自然環境」と「人間の生活の質」とは、従来の学問の領域区分ではほとんど独立に捉えられてきたが、「開発」及び「ジェンダー」という両者を通貫する視点によって、新たな展開を遂げようとしている。すなわち、あらゆるレベルでの相互依存性が強まった現代社会特有の問題－代表的な事例は地球環境問題や、男女共同参画型社会形成など－に的確に対処するには、既存の価値基準・行動規範を乗り越えることが必要である。これらの現実を見定めた教育研究体制の整備と、それによる人材の育成が急務である。これは同時に従来の学問研究の枠組みを再検討することにもなる。

○ 生活政策学

高齢社会化、生活をめぐる諸価値の多様化、生活のグローバル化、女性の社会的活動領域の拡大の中で生ずる生活・家族・女性に関する諸問題を、法学・政治学・経済学・社会学の各分野から研究する。

開講科目は、生活法社会論、生活政治論、法女性論、消費者問題論、生活経済論、長寿社会論、生活福祉論、家族関係論、生活情報論 など。家庭科教育学特論を履修して家庭科教員専修免許状も取得できる。

○ 地理環境学

地理環境学コースの主要な関心は、現実の世界において空間的に展開している人間－環境関係である。自然地理学及び人文地理学の観点から、この関係を分析する方法論、並びにデータないしは情報の収集・分析に関する講義・演習が開講されている。

○ 開発・ジェンダー論

従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、新たな学際的研究の可能性を追求する。理論的分析に加え、開発や国際協力など応用分野を含めた、多様な関心と能力を持った学生を育成することを目指し、日本でも他に例を見ない独自のコースとして、内外の社会的要請に応えるものである。

ジェンダー概念の成立と現在の論点を検討する「ジェンダー開発論」、ジェンダー概念を比較文化的に研究する「ジェンダー文化論」、ジェンダーの視点から社会政策を検討する「女性政策論」、女性の視点から経済学の枠組みを再構築する「フェミニスト経済学」、社会開発・人間開発の諸過程を地球規模の視野で比較検討する「比較ジェンダー開発論」、途上国と先進国を事例に国家の開発政策とその有効性を考える「地域開発政策論」、地域研究とフィールドワークとの関係を再考する「開発地域文化論」などを開講する。

④ ライフサイエンス専攻 (生活科学系)

人間の生命活動である生活は文化的なものであり、生活のあらゆる面にわたって他生物とは異なる様相が見られる。中でも、自然環境としてのいろいろな物質や他の生物を技術により利用し、人間の衣食住などの日常生活に役立てている点は、生活の物質的基盤を与えるものとして大変重要であり、この方面における学問的発展は全人類から期待されている。そのために、食品科学、栄養科学の他、人間生活工学、環境生活工学、さらにこれらの基礎となる生物としての人間そのものを探求する生物人間科学の計5コースを置き、専門的教育研究を行う。

○ 食品科学

食品は栄養素の供給と共に、人間の生活を安全に豊かなものにする役割をになっている。食品の嗜好性を決める因子は多岐にわたっており、最新の物理的、化学的解析手法を駆使して、食品組織の状態の解明、味や香りなどの嗜好成分の分析などにより、食嗜好を客観的に評価する手法、研究体系の確立をめざす。

また、新しい食品加工技術としてのバイオテクノロジーや食品工学の手法を導入し、食資源確保の観点から加工・貯蔵の新方法を検討する。これらの研究領域を統合して最終的には、それらを食品として摂取する人間の受容機構を明らかにし、現代の我が国で起きている食に関するさまざまな問題点の解決をはかる。

○ 栄養科学

健康の維持・増進には、栄養状態や身体の恒常性維持が重要である。生体内における食物成分の変化や動態、そして、栄養素の代謝と機能について理解を深めるとともに、食品成分の栄養生理機能、生体調節機能、ストレスに対する生体防御機構などの解析を中心に教育・研究を行う。これら栄養素の生体内において果たす役割を背景とし、老化や成人病の予防・発症の遅延、そして、自然環境の変化を含む各種ストレスに対する生体の適応反応について、食物の摂取による代謝調節や制御、食生活や生活行動に基づく健康維持への効果を含めて解説する。

○ 人間生活工学

住居・都市を取り巻く音熱、光、空気について我々の生活に及ぼす影響や、人工的環境を創造する空気調和・衛生工学、エネルギー問題、地球環境問題と住居の関わりについて探究する。さらに、生活や環境における諸現象・諸問題を物理的・工学的観点より研究する。工学技術を用いた各種生活支援機器・システムの設計及び評価手法に関する研究を行う。

○ 環境生活工学

人間の生活を直接支持かつ支配している生活材料・生活環境を研究・教育の対象としている。生活材料としては特に、消臭材料や高吸水性材料などについて必要な機能・物性、最適な設計、開発手法、そしてこれらの材料に関する工学的成果をいかに生活に活かすかを検討している。

また、洗浄や染色・仕上げ加工の機構など、繊維製品の取り扱いに関連した基礎的事項の究明を目指している。生活環境としては、必須因子である水について、人間にとって安全かつ快適な水環境を構築していくための方法論及びその評価方法などについて工学的に取り扱っている。

○ 生物人間科学

人間は生活の主体であり、生活をよりよいものとするためには人間そのものについての理解を深めることが極めて大切である。

本コースは人類としての人間を自然科学的に探究することを目指し、その身体的側面を中心とした本質、由来変異、適応などのデータ収集と分析を行い、生物としての人間すなわち人類、ヒトに関する専門教育研究を行うが、そのことにより、優れた生活用品の開発や心身の健康増進にも新しい視野を与えることが期待される。

① ライフサイエンス専攻 (生命科学系)

生命科学系は、地球上の生物に共通して見られる生命現象を解明し、生命の起源以来三十数億年の間進化してきた多様性と独自性を特徴とする生命とは何かを追求する生物学に関する教育・研究を行う。

さらには、食物・健康・環境などの諸問題と取り組む基本となる新しい先端科学技術を捉え直す基盤形成をも目指して研究・教育を行う。

○ 分子生物科学

分子生物科学を基盤として、生体物質の生化学・物理化学的解析方法や遺伝子操作を含む細胞工学・遺伝子工学的手法を総合し、動植物にかかわる基本的、かつ、高次な生物現象を分子レベルまで掘り下げて解析することを中心に研究・教育を行う。

糖鎖分子・糖質分子科学、生化学、分子生理学、分子遺伝学、分子細胞生物学などの学問分野が含まれる。

○ 生命体科学

生命現象の背後には、生体調節や生体防御に関する大小さまざまなシステムがあり、生物種によって著しく多様化、複雑化している。

本コースでは、生命体活動の基本素子となる生体分子の構造と機能の研究を基盤とし、細胞、組織、器官及びシステムとして構成される個体レベルの構造と機能、さらには、そうした仕組みの進化にわたる多角的な研究・教育を行う。生理学、発生学、遺伝学、進化学などの学問分野が含まれる。

② 物質科学専攻

マイクロから宇宙スケールにおよぶ物質の構造と形成過程、フェムト秒から億年にわたる現象のダイナミクスなど、物質が示すあらゆる性質を解明し予測することを目的に、物理学と化学によるアプローチを総合して研究・教育を行う。

○ 相関物質科学

相転移、パターン形成、溶液の構造、ガラス、磁気スピングラス、非線形反応などの非線形・非平衡系について、物理・化学の両面から、統合的な教育・研究を行う。

○ 分子科学

分子や分子集団の構造、物性及び反応に関する理論と実験についての教育・研究を行う。

○ 物理科学

究極の物質構成単位の素粒子から、その集合体の原子・分子・結晶、さらに宇宙の構造までを支配する原理・法則を探究する実験と理論の研究・教育を行う。

③ 数理・情報科学専攻

数学と情報科学は互いに連携しつつ、自然科学のみならず広範な領域での現象の解明に不可欠な基盤となっており、また幅広い分野で活用されている。本専攻では、様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開、数学とコンピュータによる自然科学諸分野の現象の数理科学的解明、様々な分野の情報に対するコンピュータによる接近法及び得られた情報の表現法の開発等に関する高度な専門教育と研究を行う。

○ 情報科学

コンピュータによるデータの処理に関連する基礎研究及びその自然科学分野への応用に関する教育・研究を行う。

○ 応用数理

情報科学の基礎づけや計算機支援による理学研究に関わる分野での数理科学の教育・研究を行う。

○ 数 学

様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開に関する高度な専門教育と研究を行う。

○平成14年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）
学生募集要項

1. 募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	9月入試	3月入試
比較社会文化学専攻	18名	実施しない	平成14年3月4日（月） ～6日（水）
国際日本学専攻	11名		
人間発達科学専攻	15名		
人間環境科学専攻	16名	平成13年9月13日（木） ～14日（金）	
複合領域科学専攻	13名		

※ 募集人員には、一般選抜以外の進学者選考の募集人員を含む。

2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成13年9月・14年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により修士の学位を授与された者
- (3) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
- (4) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成14年4月1日までに24歳に達する者
- (7) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

※出願資格の(2)～(7)により受験を希望する者は、出願前に入試課に照会すること。

なお、(6)資格審査により受験を希望する者は、出願期間が異なるので注意すること。

3. 出願期間

9月入試	平成13年8月14日（火）～8月17日（金）〔必着〕 ※但し、8月16日（木）以前の消印のあるものに限り、期間後に到着した場合でも受理する。
3月入試	平成14年1月22日（火）～1月25日（金）〔必着〕 ※但し、1月24日（木）以前の消印のあるものに限り、期間後に到着した場合でも受理する。

但し、出願資格（6）に該当する者の出願手続きは、次のとおりとする。

出願期間 9月入試：平成13年7月31日（火）～8月2日（木）当日消印有効
3月入試：平成14年1月8日（火）～1月10日（木）当日消印有効
（検定料、検定料納付書及び返信用封筒を除いた出願書類を提出すること）

資格審査結果 9月入試：平成13年8月10日（金）までに申請者あて郵送により通知する。
3月入試：平成14年1月18日（金）までに申請者あて郵送により通知する。

出願資格決定後、所定の出願期間内に検定料、検定料納付書及び返信用封筒を郵送すること。

4. 出願方法

出願は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。
もし、論文等が封筒に入りきらない場合には、「書留速達小包」として送っても差し支えない。

受験票は口述試験要領・日程案内等を同封の上、後日送付する。

5. 選考方法

学力検査（言語試験・口述試験）及び出願書類を総合して行う。
詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

6. 試験場所

9月試験 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科棟
3月試験 言語試験：理学部3号館7F講義室
口述試験：大学院人間文化研究科棟

7. 合格発表

9月入試	9月25日（火）
3月入試	3月11日（月）

- (1) 15時30分頃に大学院人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。
- (2) 合格通知書は、本部棟2階入試課で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）
なお、当日、受領できない者については郵送する。（翌日午後発送予定）

8. 検定料、入学料及び授業料

検定料	30,000円
入学料	282,000円
授業料	496,800円（年額）

注1)検定料については、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。
注2)在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用される。

9. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、入試課（下記の電話番号）に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。
- (5) 出願後受験を辞退する場合や、合格後入学を辞退する場合にはすみやかにその旨連絡のこと。

10. 入学手続関係書類

9月入試：平成14年2月に郵送する。
3月入試：合格通知書に同封する。
※合格通知後、住所を変更した場合は必ず入試課へ届け出ること。

11. 問い合わせ先

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学 入試課
TEL (03) 5978-5697
FAX (03) 5978-5895

専攻及び講座の概要

1. 目的

本学の博士後期課程は、女性研究者が高度の専門研究及び専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較社会文化学専攻	国際日本学専攻	人間発達科学専攻	人間環境科学専攻	複合領域科学専攻	合計
入学定員	18	11	15	16	13	73

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位である。

6. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名	講座名	要旨
比較社会文化学専攻	比較社会論	社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を行う。
	国際文化論	世界、特に欧米とアジアの文化を言語や文学、思想を中心として研究し、我が国における異文化理解を深める。
	表象芸術論	比較対照的な分析方法にかえて、芸術作品、芸術活動の国際性、社会性という視点からの分析を強化する。
	科学文化論	自然科学と人文科学の学際分野での研究・教育だけでなく哲学的視野をもった自然科学あるいは数理・情報的知識を背景にもつ人文科学など、高度に総合的な科学文化を追求する。

	専攻名	講座名	要 旨
国際 日 本 学 専 攻	古代から現代に至る日本の言語文化と社会に関する幅広い学問領域（日本文学、日本語教育、日本史学、地理学、舞踊学等）を結集し、学際的・総合的に研究・教育を行う。	総合 日本 学	文学・語学・美術・芸能などの諸分野の文化が個別に追求してきた課題を言語文化・生活文化・伝統文化などの概念のもとに史的展開を明らかにしつつ総合的に考究し、諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		日本 分析 論	日本の社会・政治・経済・文化などをめぐる諸問題を分析し、その普遍性・特殊性を明らかにするとともに諸外国での研究成果を導入し、国際的観点を重視する。
		応用 日本 言語 論	多角的かつ総合的観点から日本語を中心にして研究を進め、その研究成果を応用して言語教育の方法を探究する。
人 間 発 達 科 学 専 攻	人間の心の発達と社会環境の発達に関わる幅広い学問領域を結集し、学際的・総合的に教育研究を行うとともに、その分野での社会的必要性の高い諸問題の解決を図る女性の研究者及び専門的職業人の育成を目指す。	発達 基礎 論	個体としての人間の発達だけでなく、「種」としての人間発達の特徴も明らかにするために、個体発生上、系統発生上の比較考察を基礎として、併せて、歴史的思想的な比較考察を視野に入れて、胎児期・乳幼児期から老年期に至るまでの人間のライフコースとそれぞれの段階にみられる諸特徴、並びに発達要因の解明を目指す。
		発達 臨床 論	人間発達の生涯にわたるその諸段階を、メンタルヘルスの観点から臨床的に究明する。研究方法としては、日常的な観察や相談等の研究指導が不可欠であり、人間の生涯発達についての実践的な役割を担うものである。
		発達 社会 環境 論	人間の生涯にわたる発達は、生物学的・心理的側面を持つと同時に、家族、学校教育、諸生涯学習施設、職業集団をはじめとする諸集団など、広義の社会環境との相互作用の中で生起する現象である。こうした人間発達の社会・歴史・文化的環境との相互作用を、社会科学的観点から扱う。
		ジェ ン ダ ー 論	ジェンダー概念の成立史と現時点での理論的検討及び内外のジェンダーに関わる諸問題、実証的・政策的課題を、ジェンダー研究の視点から解明する。

	専攻名	講座名	要 旨
人間環境科学専攻	人間は環境の主体であると同時に自然環境を構成する生物の一員でもある。この二面性、すなわち、人間を取り巻く自然環境の生物という基盤と、その上に築かれる人間生活という構造からなる。両者は、自然環境を媒介として、生命・生物という基盤部分が、人間・生活という上部組織と重なるという構造をもつ。全体として両者を統合しつつ人間と環境の調和を目指した研究・教育を行う。	相関生命科学	生命体としての人間そのものを明らかにすることを目的とする。高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。
		生活システム科学	生活している人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境を人間にとって合理的、快適にするように設計・制御を行なうことを目的とする。生活空間内における人間／環境間の物質・エネルギーの交換、体表を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料物性・人体生理の面から総合的に研究を行なう。
		食環境科学	老化・ストレス・過剰栄養摂取と食物の嗜好形成や安全性・資源問題を環境との相互関係の中で解明することを目的とする。人間の健康を維持するための栄養と食生活、食物嗜好の形成機構と性差から食資源の安全性や開発など食環境全般にわたる問題をバイオサイエンスも含む食物科学の手法で解明する
複合領域科学専攻	人間が構成する社会とその産物である文化と歴史、人間を取り巻く自然を構成している物質及び生物、さらに自然と人間が織りなす世界の諸現象をミクロ及びマクロな視点から捉え、現代自然科学の方法論を基礎に据えて学際融合的に研究・教育を行う。	社会情報科学	社会現象を情報科学の方法によって解析するとともに、情報の社会に及ぼす影響を動的に研究する。また、情報の伝播に伴う人間の存在様式の変動を基礎科学の方法論を踏まえつつ、人文・社会科学の視点を用いてグローバルに解明する。
		数理自然情報科学	自然と情報とを双方向に研究する。すなわち、純粋数学それ自身の研究及び基礎科学共通の言語としての数学の研究を行うとともに、科学の諸分野への数理的方法論の適用、また応用分野の研究を行う。また情報理論的立場から自然現象に関する情報の解析と処理を行うとともに、自然との関連における情報科学の研究を行う。
		物質科学	現代物理学及び化学の方法を用いて、物質の構成要素である素粒子、原子核、原子、分子の性質を研究するとともに、それらの集合体である物質に固有の性質や多様な振る舞いを、ミクロ及びマクロな視点から解明する。
		複雑系科学	要素還元主義の視点からは捉えることの困難な複雑系の諸現象を、自然科学、ことに数理的視点を基礎にした統合的方法論によって研究する。自然界にみられる秩序相の生成、社会組織の生成と崩壊、生命現象のヒエラルキーの内部に見出される自己最適化と応答可塑性、意識の本質と創造性の問題等を、複雑系が内包する相互作用による自己組織化という視点を核に、学際融合的に研究する。

○平成14年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）
外国人留学生学生募集要項

1. 募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	9月入試	3月入試
比較社会文化学専攻	若干名	実施しない	平成14年3月4日（月） ～6日（水）
国際日本学専攻	若干名		
人間発達科学専攻	若干名		
人間環境科学専攻	若干名	平成13年9月13日（木） ～14日（金）	
複合領域科学専攻	若干名		

2. 出願資格

下記に該当する外国人女子で、出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格）を有する者及び取得できる見込みの者とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成13年9月・14年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により修士の学位を授与された者
- (3) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
- (4) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成14年4月1日までに24歳に達する者。
- (7) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

注1)日本において高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

注2)出願資格の(2)～(7)により受験を希望する者は、出願前に入試課に照会すること。

なお、(6)により受験を希望する者は、出願期間が異なるので注意すること。

3. 出願期間

9月入試	平成13年8月14日（火）～8月17日（金）〔必着〕 ※但し、8月16日（木）以前の消印のあるものに限りに、期間後に到着した場合でも受理する。
3月入試	平成14年1月22日（火）～1月25日（金）〔必着〕 ※但し、1月24日（木）以前の消印のあるものに限りに、期間後に到着した場合でも受理する。

但し、出願資格（6）に該当する者の出願手続きは、次のとおりとする。

出願期間 9月入試：平成13年7月31日（火）～8月2日（木）当日消印有効
3月入試：平成14年1月8日（火）～1月10日（木）当日消印有効
（検定料、検定料納付書及び返信用封筒を除いた出願書類を提出すること）

資格審査結果 9月入試：平成13年8月10日（金）までに申請者あて郵送により通知する。

3月入試：平成14年1月18日（金）までに申請者あて郵送により通知する。

出願資格決定後、所定の出願期間内に検定料、検定料納付書及び返信用封筒を郵送すること。

4. 出願方法

出願は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。

もし、論文等が封筒に入りきらない場合には、「書留速達小包」として送っても差し支えない。

受験票は口述試験要領・日程案内等を同封の上、後日送付する。

5. 選考方法

学力検査（言語試験・口述試験）及び出願書類を総合して行う。

詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

6. 試験場所

9月試験 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科棟

3月試験 言語試験：理学部3号館7F講義室

口述試験：大学院人間文化研究科棟

7. 合格発表

9月入試	9月25日（火）
3月入試	3月11日（月）

- (1) 15時30分頃に大学院人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。
- (2) 合格通知書は、本部棟2階入試課で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）

なお、当日、受領できない者については郵送する。（翌日午後発送予定）

8. 検定料、入学料及び授業料

検定料 30,000円

入学料 282,000円

授業料 496,800円（年額）

注1)検定料については、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。

注2)国費留学生は免除される場合があるので、国費証明書を添付の上出願の際に申し出ること。

注3)在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用される。

9. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、入試課（下記の電話番号）に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。
- (5) 出願後受験を辞退する場合や、合格後入学を辞退する場合にはすみやかにその旨連絡のこと。

10. 入学手続関係書類

9月入試：平成14年2月に郵送する。

3月入試：合格通知書に同封する。

※合格通知後、住所を変更した場合は必ず入試課へ届け出ること。

11. 問い合わせ先

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 入試課

TEL (03) 5978-5697

FAX (03) 5978-5895

専攻及び講座の概要

1. 目的

本学の博士後期課程は、女性研究者が高度の専門研究及び専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び募集人員

専攻名	比較社会文化学専攻	国際日本学専攻	人間発達科学専攻	人間環境科学専攻	複合領域科学専攻
入学定員	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位である。

6. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名	講座名	要旨
比較社会文化学専攻	比較社会論	社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を行う。
	国際文化論	世界、特に欧米とアジアの文化を言語や文学、思想を中心として研究し、我が国における異文化理解を深める。
	表象芸術論	比較対照的な分析方法にかえて、芸術作品、芸術活動の国際性、社会性という視点からの分析を強化する。
	科学文化論	自然科学と人文科学の学際分野での研究・教育だけでなく哲学的視野をもった自然科学あるいは数理・情動的知識を背景にもつ人文科学など、高度に総合的な科学文化を追求する。

	専攻名	講座名	要 旨
国際 日 本 学 専 攻	古代から現代に至る日本の言語文化と社会に関する幅広い学問領域（日本文学、日本語教育、日本史学、地理学、舞踊学等）を結集し、学際的・総合的に研究・教育を行う。	総合 日本 学	文学・語学・美術・芸能などの諸分野の文化が個別に追求してきた課題を言語文化・生活文化・伝統文化などの概念のもとに史的展開を明らかにしつつ総合的に考究し、諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		日本 分析 論	日本の社会・政治・経済・文化などをめぐる諸問題を分析し、その普遍性・特殊性を明らかにするとともに諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		応用 日本 言語 論	多角的かつ総合的観点から日本語を中心にして研究を進め、その研究成果を応用して言語教育の方法を探究する。
人 間 発 達 科 学 専 攻	人間の心の発達と社会環境の発達に関わる幅広い学問領域を結集し、学際的・総合的に教育研究を行うとともに、その分野での社会的必要性の高い諸問題の解決を図る女性の研究者及び専門的職業人の育成を目指す。	発達 基礎 論	個体としての人間の発達だけでなく、「種」としての人間発達の特質も明らかにするために、個体発生上、系統発生上の比較考察を基礎として、併せて、歴史的思想的な比較考察を視野に入れて、胎児期・乳幼児期から老年期に至るまでの人間のライフコースとそれぞれの段階にみられる諸特徴、並びに発達要因の解明を目指す。
		発達 臨床 論	人間発達の生涯にわたるその諸段階を、メンタルヘルスの観点から臨床的に究明する。研究方法としては、日常的な観察や相談等の研究指導が不可欠であり、人間の生涯発達についての実践的な役割を担うものである。
		発達 社会 環境 論	人間の生涯にわたる発達は、生物学的・心理的側面を持つと同時に、家族、学校教育、諸生涯学習施設、職業集団をはじめとする諸集団など、広義の社会環境との相互作用の中で生起する現象である。こうした人間発達の社会・歴史・文化的環境との相互作用を、社会科学的観点から扱う。
		ジェ ン ダ ー 論	ジェンダー概念の成立史と現時点での理論的検討及び内外のジェンダーに関わる諸問題、実証的・政策的課題を、ジェンダー研究の視点から解明する。

	専攻名	講座名	要旨
人間環境科学専攻	人間は環境の主体であると同時に自然環境を構成する生物の一員でもある。この二面性、すなわち、人間を取り巻く自然環境の生物という基盤と、その上に築かれる人間生活という構造からなる。両者は、自然環境を媒介として、生命・生物という基盤部分が、人間・生活という上部組織と重なるという構造をもつ。全体として両者を統合しつつ人間と環境の調和を目指した研究・教育を行う。	<p>相関生命科学</p>	<p>生命体としての人間そのものを明らかにすることを目的とする。高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。</p>
		<p>生活システム科学</p>	<p>生活している人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境を人間にとって合理的、快適にするように設計・制御を行なうことを目的とする。生活空間内における人間／環境間の物質・エネルギーの交換、体表を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料物性・人体生理の面から総合的に研究を行なう。</p>
		<p>食環境科学</p>	<p>老化・ストレス・過剰栄養摂取と食物の嗜好形成や安全性・資源問題を環境との相互関係の中で解明することを目的とする。人間の健康を維持するための栄養と食生活、食物嗜好の形成機構と性差から食資源の安全性や開発など食環境全般にわたる問題をバイオサイエンスも含む食物科学の手法で解明する</p>
複合領域科学専攻	人間が構成する社会とその産物である文化と歴史、人間を取り巻く自然を構成している物質及び生物、さらに自然と人間が織りなす世界の諸現象をミクロ及びマクロな視点から捉え、現代自然科学の方法論を基礎に据えて学際融合的に研究・教育を行う。	<p>社会情報科学</p>	<p>社会現象を情報科学の方法によって解析するとともに、情報の社会に及ぼす影響を動的に研究する。また、情報の伝播に伴う人間の存在様式の変動を基礎科学の方法論を踏まえつつ、人文・社会科学の視点を用いてグローバルに解明する。</p>
		<p>数理自然情報科学</p>	<p>自然と情報とを双方向に研究する。すなわち、純粋数学それ自身の研究及び基礎科学共通の言語としての数学の研究を行うとともに、科学の諸分野への数理的方法論の適用、また応用分野の研究を行う。また情報理論の立場から自然現象に関する情報の解析と処理を行うとともに、自然との関連における情報科学の研究を行う。</p>
		<p>物質科学</p>	<p>現代物理学及び化学の方法を用いて、物質の構成要素である素粒子、原子核、原子、分子の性質を研究するとともに、それらの集合体である物質に固有の性質や多様な振る舞いを、ミクロ及びマクロな視点から解明する。</p>
		<p>複雑系科学</p>	<p>要素還元主義の視点からは捉えることの困難な複雑系の諸現象を、自然科学、ことに数理的視点を基礎にした統合的方法論によって研究する。自然界にみられる秩序相の生成、社会組織の生成と崩壊、生命現象のヒエラルキーの内部に見出される自己最適化と応答可塑性、意識の本質と創造性の問題等を、複雑系が内包する相互作用による自己組織化という視点を核に、学際融合的に研究する。</p>

○平成14年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）
進学者選考要項

1. 募集人員・試験期日

専攻名	募集人員		9月入試	3月入試
	一般	留学生		
比較社会文化学専攻	18名	若干名	実施しない	平成14年3月4日（月） ～6日（水）
国際日本学専攻	11名	若干名		
人間発達科学専攻	15名	若干名		
人間環境科学専攻	16名	若干名	平成13年9月13日（木） ～14日（金）	
複合領域科学専攻	13名	若干名		

※募集人員（一般）には進学者選考以外の一般選抜の募集人員を含む。

2. 出願資格

本学人文科学研究科及び大学院人間文化研究科博士前期課程を平成13年9月・平成14年3月に修了見込の者。

3. 出願期間

9月入試	平成13年8月14日（火）～8月17日（金）〔必着〕 ※但し、8月16日（木）以前の消印のあるものに限りに、期間後に到着した場合でも受理する。
3月入試	平成14年1月22日（火）～1月25日（金）〔必着〕 ※但し、1月24日（木）以前の消印のあるものに限りに、期間後に到着した場合でも受理する。

4. 出願方法

出願は書留速達とし、出願用封筒に書類を一括し、郵送のこと。
もし、論文等が封筒に入りきらない場合には、「書留速達小包」として送っても差し支えない。
受験票は口述試験要領・日程案内等を同封の上、後日送付する。

5. 選考方法

学力検査（口述試験）及び出願書類を総合して行う。
詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

6. 試験場所

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科棟

7. 合格発表

9月入試	9月25日(火)
3月入試	3月11日(月)

- (1) 15時30分頃に大学院人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。
- (2) 合格通知書は、本部棟2階入試課で受験票を確認の上、交付する。(合格者の代理人でも差し支えない。)
なお、当日、受領できない者については郵送する。(翌日午後発送予定)

8. 検定料、入学料及び授業料

- (1) 検定料及び入学料は、不要です。
- (2) 授業料は、平成11年度以前に博士前期課程(修士課程)に入学した学生は、当該入学年度の額とする。平成12年度入学、平成13年度入学の学生は、496,800円(年額)。
なお、平成13年度以降の入学者は在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用される。

9. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、入試課(下記の電話番号)に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。
- (5) 出願後受験を辞退する場合や、合格後入学を辞退する場合には、すみやかにその旨連絡のこと。

10. 進学手続関係書類

- 9月入試：平成14年2月に郵送する。
3月入試：合格通知書に同封する。
※合格通知後、住所を変更した場合は必ず入試課へ届け出ること。

11. 問い合わせ先

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学 入試課
TEL (03) 5978-5697
FAX (03) 5978-5895

専攻及び講座の概要

1. 目的

本学の博士後期課程は、女性研究者が高度の専門研究及び専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較社会文化学専攻	国際日本学専攻	人間発達科学専攻	人間環境科学専攻	複合領域科学専攻	合計
入学定員	18	11	15	16	13	73

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位である。

6. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名	講座名	要旨
比較社会文化学専攻	比較社会論	社会分析的視点を大幅に強化し、社会構造の分析にとどまらない社会と文化の学際的・総合的な研究を行う。
	国際文化論	世界、特に欧米とアジアの文化を言語や文学、思想を中心として研究し、我が国における異文化理解を深める。
	表象芸術論	比較対照的な分析方法にかえて、芸術作品、芸術活動の国際性、社会性という視点からの分析を強化する。
	科学文化論	自然科学と人文科学の学際分野での研究・教育だけでなく哲学的視野をもった自然科学あるいは数理・情報的知識を背景にもつ人文科学など、高度に総合的な科学文化を追求する。

	専攻名	講座名	要 旨
国際 日 本 学 専 攻	古代から現代に至る日本の言語文化と社会に関する幅広い学問領域（日本文学、日本語教育、日本史学、地理学、舞踊学等）を結集し、学際的・総合的に研究・教育を行う。	総合 日本 学	文学・語学・美術・芸能などの諸分野の文化が個別に追求してきた課題を言語文化・生活文化・伝統文化などの概念のもとに史的展開を明らかにしつつ総合的に考究し、諸外国での研究成果を導入し、国際的視点を重視する。
		日本 分析 論	日本の社会・政治・経済・文化などをめぐる諸問題を分析し、その普遍性・特殊性を明らかにするとともに諸外国での研究成果を導入し、国際的観点を重視する。
		応用 日本 言語 論	多角的かつ総合的観点から日本語を中心にして研究を進め、その研究成果を応用して言語教育の方法を探究する。
人 間 発 達 科 学 専 攻	人間の心の発達と社会環境の発達に関わる幅広い学問領域を結集し、学際的・総合的に教育研究を行うとともに、その分野での社会的必要性の高い諸問題の解決を図る女性の研究者及び専門的職業人の育成を目指す。	発達 基 礎 論	個体としての人間の発達だけでなく、「種」としての人間発達の特質も明らかにするために、個体発生上、系統発生上の比較考察を基礎として、併せて、歴史的思想的な比較考察を視野に入れて、胎児期・乳幼児期から老年期に至るまでの人間のライフコースとそれぞれの段階にみられる諸特徴、並びに発達要因の解明を目指す。
		発達 臨 床 論	人間発達の生涯にわたるその諸段階を、メンタルヘルスの観点から臨床的に究明する。研究方法としては、日常的な観察や相談等の研究指導が不可欠であり、人間の生涯発達についての実践的な役割を担うものである。
		発達 社 会 環 境 論	人間の生涯にわたる発達は、生物学的・心理的側面を持つと同時に、家族、学校教育、諸生涯学習施設、職業集団をはじめとする諸集団など、広義の社会環境との相互作用の中で生起する現象である。こうした人間発達の社会・歴史・文化的環境との相互作用を、社会科学的観点から扱う。
		ジ ェ ン ダ ー 論	ジェンダー概念の成立史と現時点での理論的検討及び内外のジェンダーに関わる諸問題、実証的・政策的課題を、ジェンダー研究の視点から解明する。

専攻名		講座名	要 旨
人間環境科学専攻	人間は環境の主体であると同時に自然環境を構成する生物の一員でもある。この二面性、すなわち、人間を取り巻く自然環境の生物という基盤と、その上に築かれる人間生活という構造からなる。両者は、自然環境を媒介として、生命・生物という基盤部分が、人間・生活という上部組織と重なるという構造をもつ。全体として両者を統合しつつ人間と環境の調和を目指した研究・教育を行う。	相関生命科学	生命体としての人間そのものを明らかにすることを目的とする。高度に複雑な生命体の巨視的および微視的構造、機能、応答、情報処理、遺伝のメカニズムを、個体・細胞・分子レベルで解明する。
		生活システム科学	生活している人間とその環境との関係を明らかにし、かつ、その環境を人間にとって合理的、快適にするように設計・制御を行なうことを目的とする。生活空間内における人間／環境間の物質・エネルギーの交換、体表を通じての物理的・化学的・生理的刺激とその応答、快適性・安全性との関係などを、環境パラメータ・材料物性・人体生理の面から総合的に研究を行なう。
		食環境科学	老化・ストレス・過剰栄養摂取と食物の嗜好形成や安全性・資源問題を環境との相互関係の中で解明することを目的とする。人間の健康を維持するための栄養と食生活、食物嗜好の形成機構と性差から食資源の安全性や開発など食環境全般にわたる問題をバイオサイエンスも含む食物科学の手法で解明する
複合領域科学専攻	人間が構成する社会とその産物である文化と歴史、人間を取り巻く自然を構成している物質及び生物、さらに自然と人間が織りなす世界の諸現象をミクロ及びマクロな視点から捉え、現代自然科学の方法論を基礎に据えて学際融合的に研究・教育を行う。	社会情報科学	社会現象を情報科学の方法によって解析するとともに、情報の社会に及ぼす影響を動的に研究する。また、情報の伝播に伴う人間の存在様式の変動を基礎科学の方法論を踏まえつつ、人文・社会科学の視点を用いてグローバルに解明する。
		数理自然情報科学	自然と情報とを双方向に研究する。すなわち、純粋数学それ自身の研究及び基礎科学共通の言語としての数学の研究を行うとともに、科学の諸分野への数理的方法論の適用、また応用分野の研究を行う。また情報理論的立場から自然現象に関する情報の解析と処理を行うとともに、自然との関連における情報科学の研究を行う。
		物質科学	現代物理学及び化学の方法を用いて、物質の構成要素である素粒子、原子核、原子、分子の性質を研究するとともに、それらの集合体である物質に固有の性質や多様な振る舞いを、ミクロ及びマクロな視点から解明する。
		複雑系科学	要素還元主義の視点からは捉えることの困難な複雑系の諸現象を、自然科学、ことに数理的視点を基礎にした統合的方法論によって研究する。自然界にみられる秩序相の生成、社会組織の生成と崩壊、生命現象のヒエラルキーの内部に見出される自己最適化と応答可塑性、意識の本質と創造性の問題等を、複雑系が内包する相互作用による自己組織化という視点を核に、学際融合的に研究する。

○学位授与

(論文提出によるもの)

学位授与日：平成13年6月27日

授与番号	博士の専攻分野の名称	氏名	本籍	博士論文名
乙第147号	博士(人文科学)	東 聖子	東京都	蕉風俳諧における〈季語・季題〉の研究
乙第148号	博士(人文科学)	柴 佳世乃	神奈川県	「読経道」の研究—法華経読誦と中世文化—
乙第149号	博士(社会科学)	道 信良子	広島県	Changing Sexuality and HIV Risk among Factory Women in Northern Thailand



諸 報

○名誉教授の称号授与について

平成13年4月25日に、下記の方に本学名誉教授の称号が授与されました。

(氏 名)	(元 官 職)
三 木 紀 人	文教育学部教授
水 野 悌 一	生活科学部教授
小 池 三 枝	生活科学部教授
大 口 勇次郎	大学院人間文化研究科教授



三木紀人 名誉教授略歴等

生年月日 昭和10年5月27日生

略歴 昭和34年3月 東京大学文学部国文学科卒業
昭和37年3月 同 大学院人文科学研究科国語国文学専攻修士課程修了
昭和41年3月 同 大学院人文科学研究科国語国文学専攻博士課程退学
昭和41年4月 静岡女子短期大学国文学科専任講師
昭和42年4月 静岡女子大学国文学科専任講師
昭和45年4月 共立女子大学短期大学部国語科助教授
昭和46年4月 成蹊大学文学部日本文学科助教授
昭和50年4月 お茶の水女子大学文教育学部助教授
同月 同 大学院人文科学研究科（修士課程）担当
昭和53年4月 同 大学院人間文化研究科（博士課程）担当
昭和55年4月 同 文教育学部教授
平成元年4月 同 附属幼稚園長に併任
平成3年4月 同 大学院人文科学研究科日本語文化専攻（修士課程）教授
平成10年4月 同 評議員に併任
平成11年4月 同 文教育学部教授
平成13年3月 同 停年により退職
平成13年4月 同 名誉教授

研究業績 長きにわたって中世文学研究発展に務められ、特に中世知識人の外面と内面を文学史的観点から見ることによって、『方丈記』『徒然草』などの隠者文学研究の世界に大きな足跡を残された。

著書等 宇治拾遺物語・古本説話集 岩波書店 1990年
隠遁文人の世界—徒然草— 大修館書店 1990年
今物語全訳注 講談社学術文庫 1998年
その他著書、論文等多数

水野 悌一 名誉教授略歴等

生年月日 昭和10年5月12日生

略歴 昭和35年3月 名古屋大学医学部医学科卒業
昭和40年3月 同 大学院医学研究科(博士課程)満期退学
昭和41年3月 静岡市総合病院静岡厚生病院小児科医師
昭和44年1月 東京大学医学部小児科技官
昭和44年8月 東京都立北療育園城南分園長
昭和45年9月 お茶の水女子大学家政学部助教授
昭和45年10月 同 大学院家政学研究科(修士課程)担当
昭和47年11月 同 保健管理センター助教授
同月 同 保健管理センター所長に併任
昭和50年4月 同 家政学部助教授
昭和54年6月 同 大学院人間文化研究科(博士課程)担当
昭和61年4月 同 家政学部教授
平成元年4月 同 評議員に併任
平成4年10月 同 生活科学部教授
平成9年3月 同 退職
平成13年4月 同 名誉教授

研究業績 West症候群(乳幼児悪性てんかん)の代謝異常やLesch-Nyhan症候群の研究と治療法の開発、新生児の視聴覚発達やコミュニケーション障害の発生機構の研究、さらにハンディキャップ乳幼児の保育の指導の実践等があり、日本小児医学会、日本小児神経学会等で広く活躍された。

著書等 Lesch-Nyhan症候群 星和書店 1984年
初期発達障害 駿河台出版社 1994年
発達課程の一時期に多動傾向を示した乳幼児の縦断的研究 小児保健研究 1994年
その他著書、論文等多数

小池三枝 名誉教授略歴等

生年月日 昭和11年3月9日生

略歴 昭和33年3月 お茶の水女子大学家政学部被服学科卒業
 昭和34年9月 同 家政学専攻科修了
 昭和37年4月 同 家政学部技術員
 昭和38年4月 同 家政学部助手
 昭和42年4月 金沢女子短期大学家政科非常勤講師
 昭和46年8月 富山大学教育学部非常勤講師
 昭和48年4月 お茶の水女子大学家政学部非常勤講師
 昭和48年10月 同 家政学部講師
 同月 同 大学院家政学研究科（修士課程）担当
 昭和50年1月 同 家政学部助教授
 昭和63年5月 同 家政学部教授
 平成4年10月 同 生活科学部教授
 平成6年4月 同 附属中学校長に併任
 平成10年4月 同 評議員に併任
 平成10年11月 同 附属図書館長に併任
 平成13年3月 同 停年により退職
 平成13年4月 同 名誉教授

研究業績 日本の古代から近現代に至るまでの幅広い時代を対象とした服飾研究に務められ、特に人間の複雑微妙な心情とかかわった服飾の美的意味の探求に重点が置かれた。

著書等 服飾の表情 勁草書房 1991年
 ある徽章のものがたり－近代女性服飾史からの一考察－ 服飾美学会 1997年
 服飾文化論－服飾の見かた・読みかた－ 光生館 1998年
 その他著書、論文等多数

大 口 勇次郎 名誉教授略歴等

生年月日	昭和10年8月30日生			
略 歴	昭和34年3月	東京大学文学部国史学科卒業		
	昭和36年3月	同	大学院人文科学研究科修士課程修了	
	昭和39年3月	同	大学院人文科学研究科博士課程満期退学	
	昭和39年4月	同	文学部助手	
	昭和41年4月	お茶の水女子大学文教育学部講師		
	昭和41年5月	同	大学院人文科学研究科（修士課程）担当	
	昭和43年4月	同	文教育学部助教授	
	昭和51年6月	同	大学院人間文化研究科（博士課程）担当	
	昭和53年2月	同	文教育学部教授	
	昭和57年10月	同	評議員に併任	
	昭和63年1月	同	学生部長に併任	
	平成2年10月	同	文教育学部長に併任	
	平成6年11月	同	附属図書館長に併任	
	平成11年4月	同	大学院人間文化研究科教授	
		同月	同	学長補佐に併任
	平成13年3月	同	停年により退職	
	平成13年4月	同	名誉教授	

研究業績 自ら発掘した農村史料に基づく明快な近世農村経済史分析、透徹した着眼による江戸幕府財政の研究、日本における自発的近代化の萌芽を見いだした天保改革論などにおいて学界に多大な影響を与え、日本近世史学の分野において優れた業績を積み重ねられた。

著 書 等 女性のいる近世 勁草書房 1995年
女の社会史 山川出版社 2001年
徳川時代の社会史 吉川弘文館 2001年
その他著書、論文等多数

○表 彰

○学長表彰について

学長表彰式が平成13年6月27日大学会議室で行われ、被表彰者には表彰状が授与されました。

被表彰者：人間文化研究科 博士後期課程 人間環境科学専攻 鍵谷方子



○大学婦人協会・守田科学研究奨励賞の受賞について

人間文化研究科 加藤（水野）美砂子 助教授が、平成13年5月19日に大学婦人協会・守田科学研究奨励賞を受賞されました。

○施設課からのお知らせ

平成13年7月

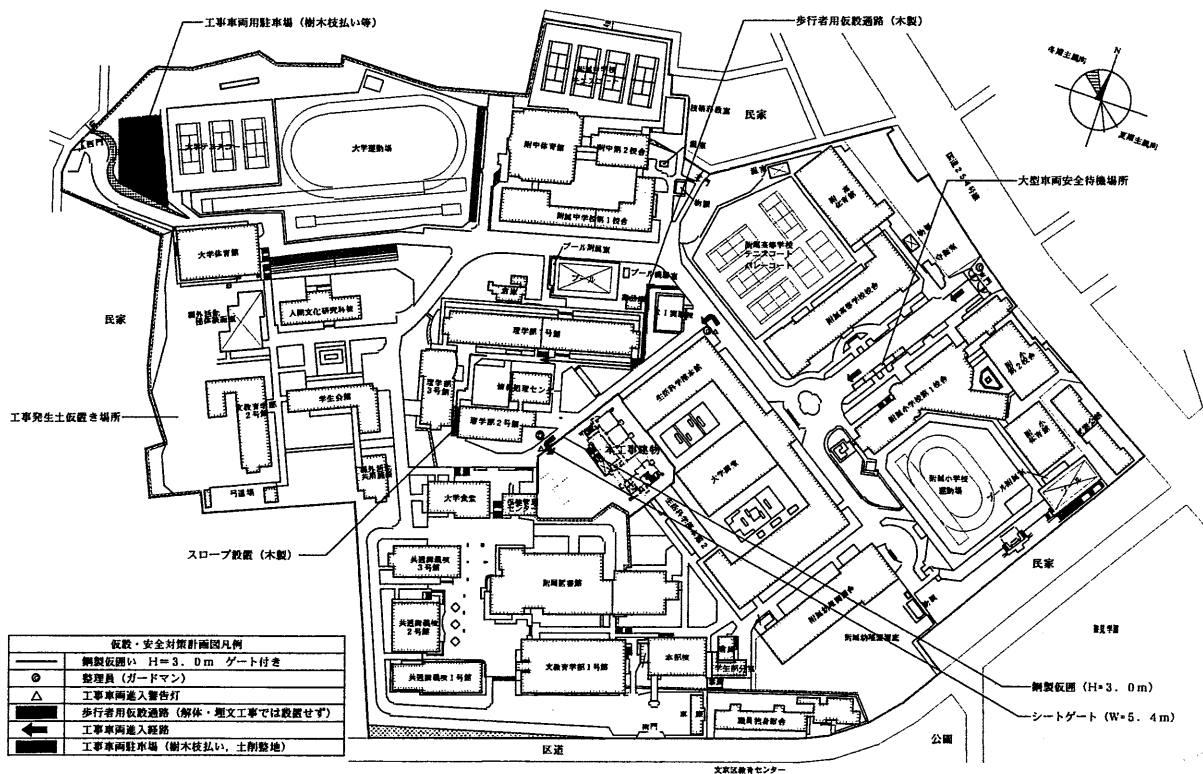
施設課

この度、平成12年度予算により、総合研究棟新営その他工事が実施されることになりました。(今現在、既存支障部分のとりこわしが行われています)

地下1階、地上8階の建物で、工期は2年間と長期間にわたるため、皆様にはご不便をおかけすることと思いますが、よろしくご協力の程お願いいたします。

なお、下図のとおり、歩行者用仮設通路及び交通整理員等安全対策には十分配慮して工事を実施しますので、大型車両通行時等は整理員の指示に従って通行をお願いします。

予定工期： 平成13年8月 ～ 平成15年2月



○五大学等事務系初任職員研修

平成13年度五大学等事務系初任職員研修が本学の当番で、6月4日（月）から6日（水）までの3日間にわたり、附属図書館第二会議室を会場に実施された。

この研修は、五大学等（東京医科歯科大学、東京芸術大学、東京商船大学、東京水産大学、国立情報学研究所及びお茶の水女子大学）における事務系初任職員の研修を共同で実施することにより、国立大学等の初任職員としての自覚を高め、併せて研修の効果をあげようとする趣旨に基づき、事務系初任職員に対して、国立大学等の職員としての基礎的知識を付与し、一体感を養うことを目的とし、年1回実施されているものである。

第17回となる今回のこの研修には、五大学等の事務系初任職員14名が参加し、矢加部事務局長の「講話」をはじめ、下田総務課長、加藤会計課長、花房学務課長らによる、現在、大学を取り巻く重要なテーマについての講義、青木大学院人間文化研究科助教授による「メンタルヘルス」の講義、大瀧大学院人間文化研究科助教授「特別講演」、また、外部講師による「接遇について」の講義を意欲あふれる態度で聞き入った。班別討議・全体討議では、与えられた課題研究について熱心に取り組むとともに、活発な意見交換を行った。

また、研修初日の大学食堂での懇親会及び研修2日目の小石川植物園の見学では、日頃会う機会の少ない他機関の研修生同士の情報交換や交流が活発に行われていた。

閉講式では、矢加部事務局長から、研修生14名に修了証書が直接授与され、今回受講した研修の成果を今後に役立ててほしい旨の挨拶があった。

（日程及び講師）

6月4日（月）

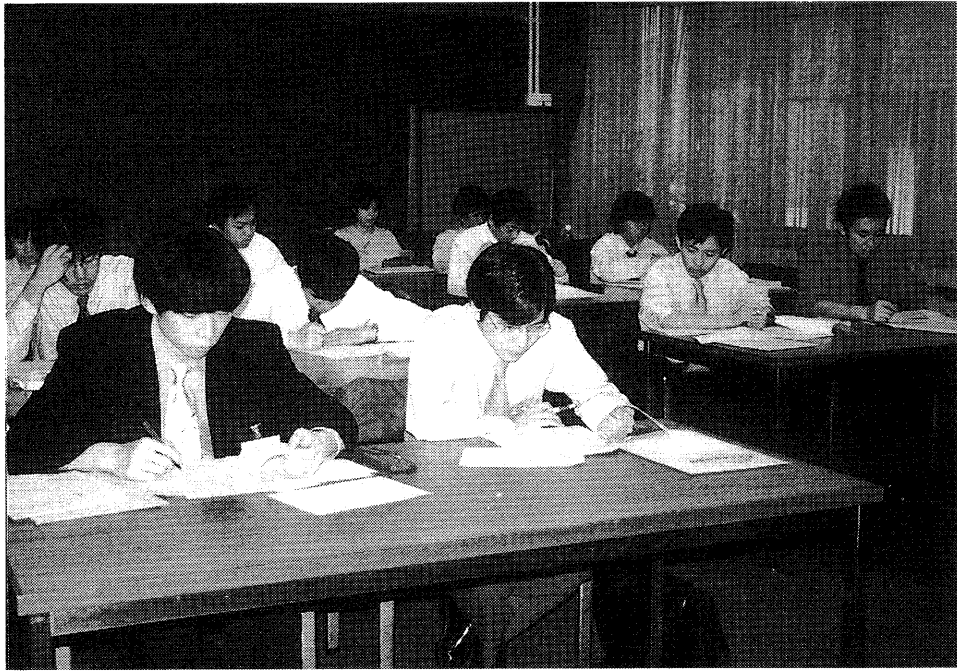
「講話」	事務局長	矢加部 英 敏
「大学職員の使命と心構え」	東京医科歯科大学総務部長	佐久間 喜 峰
「服務について」	国立情報学研究所総務課長	常 盤 勝 己

6月5日（火）

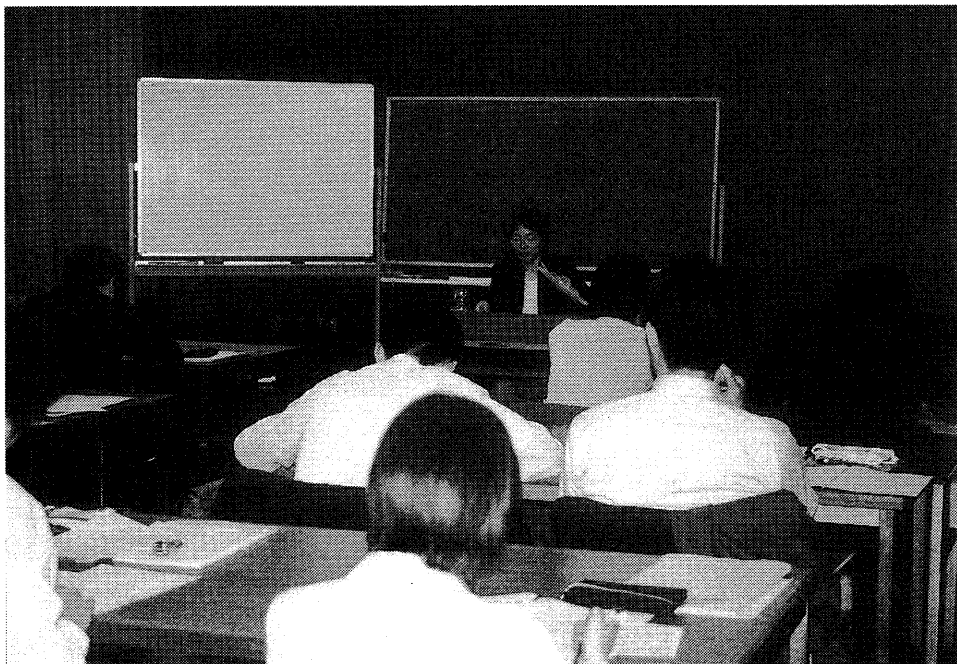
「国立大学の組織と運営」	総務課長	下 田 勝
「学生関係部局の役割と業務」	学務課長	花 房 茂 俊
「班別討議と全体討議」	（課題研究）	
「施設見学」	（小石川植物園）	

6月6日（水）

「特別講義」	大学院人間文化研究科助教授	大 瀧 雅 寛
「メンタルヘルス」	大学院人間文化研究科助教授	青 木 紀久代
「国立大学の予算と会計」	会計課長	加 藤 妙 子
「接遇について」	ビジネスナー コンサルティング代表	塚 本 晃 子



意欲あふれる態度で講義に聞き入る研修生



講義を行う加藤会計課長

○平成13年度科学研究費補助金配分決定一覧

研究種目	審査区分	研究代表者所属・職	氏名	交付額 (千円)	研究課題名
基盤研究(A)(1)	一般	大学院人間文化研究科 教授	牧野 カツコ	10,000	児童・生徒の家庭生活の意識・実態と家庭科カリキュラムの構築
基盤研究(B)(1)	一般	文教育学部 教授	平岡 公一	5,000	高齢者福祉における自治体行政と公私関係の変容に関する社会学的研究
基盤研究(B)(1)	一般	生活科学部 教授	田中 辰明	1,800	住宅の断熱材の位置とカビ発生に関する研究
基盤研究(B)(1)	一般	生活科学部 助教授	松浦 秀治	4,200	ジャワ原人の年代に関する総合的再検討
基盤研究(B)(1)	一般	生活科学部 教授	駒城 素子	12,200	水洗い不可衣料品の湿式洗濯に関する基礎研究
基盤研究(B)(1)	海外 学術 調査	文教育学部 教授	耳塚 寛明	3,600	メリクラシー規範の比較教育社会学 後期中等教育改革の日米比較研究
基盤研究(B)(1)	海外 学術 調査	文教育学部 教授	三輪 建二	1,400	生涯学習関係職員・指導者の養成と研究に関する比較研究
基盤研究(C)(1)	一般	大学院人間文化研究科 助教授	伊藤 美奈子	1,900	学校現場における子供の「荒れ」と教師の「疲れ」についての実践的研究－「荒れ」の背景にある現代社会の「私事化」傾向に注目して－
基盤研究(C)(1)	一般	ジェンダー研究センター 教授	伊藤 るり	1,600	現代日本社会における国際移民とジェンダー関係の再編に関する研究－女性移住者のエンパワーメントと新しい主体形成の検討にむけて－
基盤研究(A)(2)	一般	理学部 教授	福田 豊	3,000	刺激性応答型金属錯体の創製とそれらの構造・物性・反応
基盤研究(A)(2)	一般	理学部 教授	今井 正幸	4,300	複雑液体のモルフォロジー転移ダイナミクス
基盤研究(B)(2)	一般	理学部 教授	増永 良文	1,800	3次元ムービングオブジェクトデータベースの研究
基盤研究(B)(2)	一般	生活科学部 教授	本間 清一	7,100	コーヒーの亜鉛キレート性成分の生成要件と構成成分の科学的解明
基盤研究(B)(2)	一般	生活科学部 教授	久保田 紀久枝	9,900	調理・加工における食品香気の消長とその機能の多面的解析
基盤研究(B)(2)	一般	生活科学部 教授	脊山 洋右	10,200	脳髄黄色腫症におけるアポトーシス誘導機構
基盤研究(B)(2)	展開 研究	大学院人間文化研究科 教授	畑江 敬子	9,500	おいしい焼き物用調理機器開発を目的とした伝熱方式の制御可能な試験用オープン機の作製
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 助教授	竹村 和子	800	セクシュアリティの理論構築およびその文学／映像表象の実証研究
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 教授	林 廣子	800	環境空間に応じた歌声についての音響学的検討
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 助教授	横川 光司	1,000	代数多様体の非可換ホッジ構造の研究
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 教授	渡辺 ヒサ子	800	フラクタルな境界を持つ領域でのポテンシャル論

研究種目	審査区分	研究代表者所属・職	氏名	交付額(千円)	研究課題名
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 教授	菅本 晶夫	700	光子-光子衝突型加速器を用いた標準模型を越える物理の現象論的考察
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 教授	森川 雅博	500	自己重力系の統計力学とダイナミクス
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 助教授	堀 佳也子	800	液晶性物質の分子間相互作用と偶奇効果
基盤研究(C)(2)	一般	生活科学部 助手	山野 春子	500	生物学的手法による紫外線遮蔽加工製品の評価法の開発
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 教授	岡崎 暉	500	内省モデルに基づく日本語教育実習理論の構築
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 助教授	佐藤(頼住) 光子	900	因果観を手がかりとした道元の行為の理論の研究
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 教授	箕浦 康子	1,200	日本における文化接触研究の集大成と理論化
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 助教授	坂本 佳鶴恵	500	メディアがもたらす女性の意識変化と家族関係への影響 戦後女性雑誌の送り手・受け手分析
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 助教授	酒井 朗	1,100	デジタル革命時代における子供の人間関係と生徒指導の課題に関するエスノグラフィー
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 助教授	内田 忠賢	800	都市民俗生活誌データベース作成のための基礎研究
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 助教授	伊藤 美重子	500	漢字字書研究の基礎としての『説文解字』受容史研究
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 助教授	清水 徹郎	900	マーロウからベケットと20世紀演劇に至る間の古典の書き換えの問題
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 助教授	松崎 毅	500	17世紀イギリスの検閲および政治社会的抑圧が隠喩表象の発達に及ぼした影響の研究
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 教授	金子 晃	800	偏微分方程式とトモグラフィの函数解析的及び数値的研究
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 教授	浜谷 望	1,100	四面体分子結晶の圧力誘起アモルファス構造の解析
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 教授	益田 祐一	1,100	スピナー格子緩和時間による超高速プロトン移動速度における溶媒効果の研究
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 教授	石和 貞男	1,600	昆虫における免疫系遺伝子の歴史的多様化に関する分子進化学的研究-ショウジョウバエアンドロビン遺伝子をモデルとして-
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 助教授	小林 哲幸	1,200	細胞のストレス防御応答に関与するステリルグルコシドの合成誘導と機能の解析
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 教授	畑江 敬子	500	貝類の嗜好特性の加熱・貯蔵による変化-なぞトリガイを生食しないか-
基盤研究(C)(2)	一般	生活科学部 助教授	香西 みどり	700	植物性食品のテクスチャーに及ぼす温度および圧力効果

研究種目	審査区分	研究代表者所属・職	氏名	交付額 (千円)	研究課題名
基盤研究(C)(2)	一般	生活科学部 助教授	鈴木 恵美子	1,100	生活環境由来ストレスによる健康リスクに対する生活者の視点からの評価・対策—特に、糖尿病の人たちを対象として—
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 教授	河村 哲也	800	流れ場の解析による風力エネルギー実用化に関する数値的研究
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 助教授	小川 温子	900	糖鎖による組織修復の制御機構—細胞外マトリックス分子機能の糖鎖調節—
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 教授	高島 元洋	700	東アジアにおける儒教思想の倫理思想史的研究—「人倫」概念を手がかりに—
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 教授	耳塚 寛明	2,200	高卒無業者の教育社会学的研究—高卒労働市場と進路指導の地域差を中心に—
基盤研究(C)(2)	一般	文教育学部 助教授	菅 聡子	700	表現構造にみる女性作家の<国民化>—明治期女性作家の文体と文章表現—
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 教授	塚田 和美	1,500	等質空間のSinger不変量
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 教授	笠原 勇二	900	指数型タウバー型定理とその確率論への応用
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 教授	小林 功佳	1,200	ナノスケール領域での表面電気伝導の理論的研究
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 教授	藤枝 修子	2,600	高速液体クロマトグラフィーにおける流れへの重力相関と分離効果
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 助教授	山田 眞二	1,500	分子内カオチン— π 相互作用を利用する立体選択的付加反応
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 教授	小川 昭二郎	2,200	複素環大環状化合物のカラースイッチング機能及びリチウム選択的輸送機能
基盤研究(C)(2)	一般	生活科学部 助教授	仲西 正	2,500	機能ゲル材料を応用した快適なオムツの設計に関する研究
基盤研究(C)(2)	一般	大学院人間文化研究科 助教授	村田 容常	1,900	カット野菜の品質劣化要因である褐変機構の解析と褐変制御
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 教授	藤代 一成	2,400	時系列ベクトルフィールドに拡張されたボリュームデータマイニングツールの開発
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 助教授	千葉 和義	2,200	細胞内pH上昇による発生開始機構
基盤研究(C)(2)	一般	理学部 助教授	服田 昌之	1,300	造礁サンゴにおける変態制御ホルモンの多様性
萌芽的研究	一般	生活環境研究センター 助教授	富永 典子	300	電子レンジ加熱した市販総菜中の内分泌攪乱化学物質濃度の測定
萌芽的研究	一般	大学院人間文化研究科 教授	長友 和彦	900	第二言語としての日本語の自然習得の可能性と限界
奨励研究(A)	一般	文教育学部 助教授	神田 由築	800	日本近世における芸能興行・遊女商売の「場」の存立についての研究

研究種目	審査区分	研究代表者所属・職	氏名	交付額(千円)	研究課題名
奨励研究(A)	一般	文教育学部 助教授	安成 英樹	600	フランス絶対王政期における行政官僚のプロソグラフィ
奨励研究(A)	一般	理学部 助手	大場 清	900	リーマン面のモジュライ空間の位相的性質
奨励研究(A)	一般	理学部 助教授	戸田 正人	1,000	3次元多様体のトポロジーと双曲幾何の代数的研究
奨励研究(A)	一般	理学部 助教授	松崎 克彦	1,200	リーマン面上の射影構造の離散的ホロミー表現の研究
奨励研究(A)	一般	理学部 助教授	古川 はづき	1,000	新しい磁性超伝導体における磁性と超伝導の共存・競合に関する研究
奨励研究(A)	一般	理学部 教授	出口 哲生	500	1次元ハバート模型などの可解量子系の準位交差現象と量子力学のレベル反発則の考察
奨励研究(A)	一般	理学部 助手	岡田知子 (矢島知子)	700	フッ素化アルキルのジアステレオ選択的ラジカル付加反応の研究
奨励研究(A)	一般	理学部 助手	近藤 るみ	1,000	ショウジョウバエ嗅覚レセプター遺伝子群の分子進化的研究
奨励研究(A)	一般	生活科学部 助手	近藤 恵	700	日本列島更新世人類の相対年代および絶対年代分析
奨励研究(A)	一般	文教育学部 助教授	水村(久埜) 真由美	600	運動によるプラスの適応を最大にする減量プログラムの開発
奨励研究(A)	一般	大学院人間文化研究科 助手	関和 陽子	900	調理素材の立場から見たショウガの機能性成分の有効性に関する研究
奨励研究(A)	一般	大学院人間文化研究科 助手	竹島 由里子	500	大規模データ解析のための区間型ボリュームのフィールド値分布による詳細度制御
奨励研究(A)	一般	生活科学部 助教授	太田 裕治	800	原子間力顕微鏡を用いた赤血球のナノバイオメカニクス
奨励研究(A)	一般	大学院人間文化研究科 助教授	坂元 章	1,200	電子会議による創造的アイデアの産出-有効なシステムの開発とその効果の検討-
奨励研究(A)	一般	文教育学部 講師	勝野 正章	1,200	学校の自己評価と外部評価の連携・統合に関する理論モデル構築のための基礎的研究
奨励研究(A)	一般	生活科学部 助教授	小谷 眞男	1,100	イタリア刑事法史における<名誉の法理>
奨励研究(A)	一般	理学部 助教授	武部 尚志	1,100	2次元の場の理論の可積分系への応用
奨励研究(A)	一般	理学部 助手	小杉 のぶ子	1,200	指数タイプのタウバー型定理とその確率論への応用
奨励研究(A)	一般	理学部 講師	曹 基哲	1,400	高エネルギー素粒子衝突過程における標準模型を越える物理の現象論的研究
奨励研究(A)	一般	理学部 助手	永田 貴志	1,100	層状ペロブスカイト型酸化物; Sr _{2-x} CaxRuO ₄ における磁気的性質の解明

○平成13年度科学研究費補助金（特別研究員奨励費）配分決定一覧

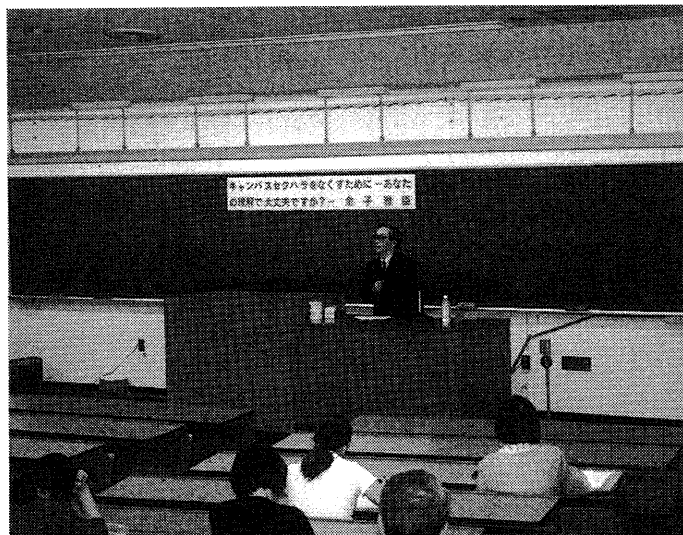
所 属 ・ 職	氏 名	交付額 (千円)	研 究 課 題 名
文教育学部 特別研究員PD	原（佐藤）典子	400	「看取り」の社会的考察と専門職化の問題－ 日仏看護婦の比較から－
大学院人間文化研究科 特別研究員PD	藤井美保子	800	言語と認識の諸問題：発話と身振りの発生メカ ニズムの検討
生活科学部 特別研究員PD	澤田留美	1,200	脂質と必須脂肪酸代謝に及ぼす食事性因子の 影響とその作用機構の解明
文教育学部 特別研究員PD	桑田直子	1,200	女性の身体の近代化の比較文化史的研究－女 子教育機関の制服導入過程を中心に－
大学院人間文化研究科 特別研究員PD	高比良美詠子	1,200	領域に対する志向性が抑うつへの生起や改善に 及ぼす影響
大学院人間文化研究科 特別研究員PD	坂元桂	1,200	単純接触効果の生起条件と生起プロセス
大学院人間文化研究科 特別研究員DC1	奥宮陽子	500	旋律の記憶難易度を規定する要因の研究
理学部 特別研究員PD	東山（佐々木）成江	1,200	高次ミトコンドリア核を形成する新規タンパク質 による1ゲノム遺伝子セットの発現制御
大学院人間文化研究科 特別研究員PD	齋藤瑞恵	800	幼児における心的単語の理解と知識獲得
理学部 特別研究員PD	梶本亮一	1,200	遷移金属酸化物の電荷整列の中性子散乱による 研究
大学院人間文化研究科 特別研究員DC2	内藤まゆみ	1,000	抑うつ者の経験的－合理的情報処理に関する 研究
大学院人間文化研究科 特別研究員DC2	酒向治子	1,000	マース・カミングハムのダンスにおけるアジア思 想
大学院人間文化研究科 特別研究員PD	上田晴子	1,000	マメ科樹木由来糖鎖認識タンパク質の生物機 能－プログラム細胞死における酵素活性調節
大学院人間文化研究科 特別研究員DC1	櫃淵めぐみ	1,000	社会構造が及ぼす心理的影響－ゲーミングシ ミュレーションによる研究－
大学院人間文化研究科 特別研究員DC1	鳥居和代	600	青少年の犯罪・不良化対策における「保護」概 念の諸相とその意義
大学院人間文化研究科 特別研究員DC1	倉光ミナ子	1,000	「開発」過程における主体である住民から見た地 域像－南太平洋・サモアを事例に－
大学院人間文化研究科 特別研究員DC1	上野如子	500	「新古今歌人」源実朝と歌人鏝也の捉え直し及 び西国に対する中世東国武士文化の解明
理学部 特別研究員PD	中野毅	1,000	ヒトゲノム減数分裂再開に関与する細胞内情報 伝達系
大学院人間文化研究科 特別研究員PD	岩槻恵子	800	説明文理解における図の役割
文教育学部 特別研究員PD	荒川（田中）葉	1,200	高校教育改革の社会学－能力主義的選択の 変容と自己責任原理の導入

○セクシャル・ハラスメント防止に関する講演会を開催

セクシャル・ハラスメント防止に関する講演会を、5月31日（木）午後4時半から共通講義棟2号館201室で開催し、約70名の教職員が参加した。

講師：金子 雅臣氏（東京都産業労働局中央労政事務所課長補佐）

演題：キャンパスセクハラをなくすために－あなたの理解で大丈夫か－

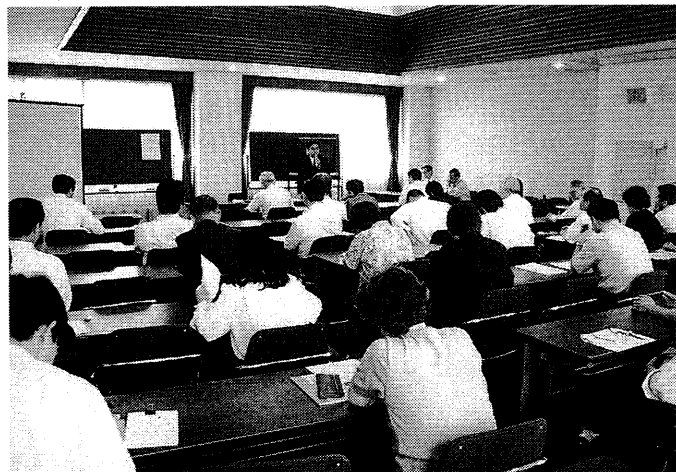


○独立行政法人化への対応に関する講演会を開催

独立行政法人化への対応に関する講演会を、事務系職員を対象として6月22日（金）午後3時から大学院人間文化研究科棟大会議室で開催し、約50名が参加した。

講師：公認会計士 宮本 和之氏（中央青山監査法人）

演題：独立行政法人化のための準備作業－「先行独法に学ぶ」－



○訃 報

波多野 完 治 名誉教授 (元学長)

波多野 完治氏には病気のため平成13年5月23日逝去されました。享年96才。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

なお、生前の功績により正四位に叙されました。

生年月日	明治38年2月7日生
略 歴	昭和4年4月 法政大学高等師範部講師
	昭和15年9月 同 高等師範部教授
	昭和19年4月 中央工業専門学校教授
	昭和22年11月 東京女子高等師範学校教授
	昭和26年8月 お茶の水女子大学教授
	昭和32年1月 同 文教育学部長 (併任)
	昭和44年1月 同 学長
	昭和46年6月 同 名誉教授
	平成13年5月 逝 去

研究業績 文章心理学の研究の第一人者として活躍し、この分野においては正に草分け的な貴重な存在として知られ、著作活動を通じて開拓的偉業をとげた。

とくにピアジェの発生的認識論の構想を紹介し発展させた功績は大きい。

本学在任中は、文教育学部長、学長を歴任、とくに学長在職中は、激発期であった学生問題にその温厚篤実な人柄と高遠なる哲理をもって、平穩に学生を善導した。

著 書 等	文章心理学	三省堂	昭和10年
	波多野完治全集 (全12巻)	小学館	昭和62年～平成3年
	吾れ老ゆ故に吾れ在り	光文社	平成5年
	その他著書、論文等多数		

そ の 他

- ・勲二等旭日重光章受章 (昭和50年11月)
- ・NHK放送文化賞受賞 (昭和33年3月)
- ・社会教育審議会委員、教育課程審議会委員、国語審議会委員、学校図書館審議会委員、学術審議会専門委員等を歴任
- ・日仏教育学会初代会長 (昭和57年3月～平成2年10月)
- ・財団法人ユニバーサル財団理事長 (平成2年10月～)

日 誌

- | | |
|---|---|
| <p>5月7日(月) 学長補佐会議</p> <p>8日(火) 附属学校連絡会
拡大主任会議(生)
主任会議(文・理)</p> <p>9日(水) 教授会
人間文化研究科前期専攻会議</p> <p>10日(木) 独立行政法人化調査検討委員会</p> <p>11日(金) 課長等連絡会議</p> <p>14日(月) 名誉教授称号授与式
名誉教授懇談会</p> <p>15日(火) 保健管理センター運営委員会
理学部入学者選抜方法検討委員会
大学評価委員会</p> <p>16日(水) 代議員会
人間文化研究科(博士前期課程・博士後期課程)入試委員会
独立行政法人化調査検討委員会
入試広報専門委員会
人間文化研究科後期専攻会議</p> <p>17日(木) 学芸員課程・社会教育主事課程専門委員会
学生委員会
共用体育施設等運営委員会
大学評価委員会</p> <p>18日(金) 文教育学部入試方法検討委員会</p> <p>21日(月) 学長補佐会議
附属学校教育研究委員会</p> <p>22日(火) 保健管理センター運営委員会
部局長会議
国際交流基金理事会
入学者選抜方法研究委員会</p> <p>23日(水) 人間文化研究科専攻長会議
評議会
施設計画委員会
独立行政法人化調査検討委員会</p> <p>25日(金) 公開講座委員会</p> <p>28日(月) ジェンダー研究センター運営委員会
事務連絡協議会</p> <p>30日(水) 附属学校委員会
独立行政法人化調査検討委員会</p> <p>31日(木) セクシャル・ハラスメント防止に関する講演会
臨海実験所運営委員会
開学記念日</p> | <p>6月1日(金) 学部入試実施委員会</p> <p>4日(月) 平成13年度五大学等事務系初任職員研修(～6日)
学長補佐会議
広報委員会</p> <p>5日(火) 主任会議</p> <p>6日(水) 教授会
四附属懇親会
人間文化研究科前期専攻会議</p> <p>7日(木) 教育実習専門委員会
ラジオアイソトープ実験室運営委員会
学務委員会</p> <p>8日(金) 入学者選抜方法研究委員会</p> <p>12日(火) 附属学校連絡会
生活環境研究センター運営委員会
入試広報委員会</p> <p>13日(水) 代議員会
人間文化研究科(博士前期課程・博士後期課程)入試委員会
独立行政法人化調査検討委員会
人間文化研究科後期専攻会議</p> <p>18日(月) 保健管理センター運営委員会
学長補佐会議
附属学校教育研究委員会</p> <p>19日(火) 部局長会議
入学試験委員会</p> <p>20日(水) 人間文化研究科専攻長会議
評議会
独立行政法人化調査検討委員会</p> <p>21日(木) 情報処理センター員会議</p> <p>22日(金) 独立行政法人化への対応に関する講演会
事務連絡協議会</p> <p>25日(月) 国立3大学付属学校連絡協議会</p> <p>26日(火) ファカルティ・ディベロップメント委員会</p> <p>27日(水) 学位記(論文博士)授与式
学長表彰式
附属学校委員会
ホームページ運営委員会
独立行政法人化調査検討委員会
理学部3年次編入学試験</p> <p>28日(木) 学生委員会</p> |
|---|---|